莠草年録

鬼報録　九十九

836
209
3

鬼報録第十二

（戊辰八月 九月）

目録

一 淫平話（自八月六日 至九日）
三 北伐死傷調（自四月廿五日 至七月末九ら）
五 北陣中兵助氏寄合隊氏名
七 紀聞（八月十一日）
九 長州殉国士葬地図
十一 八月八日夜矢代河原留書水戸兵隊北下之事
十三 近頃聞記（八月十二日ゟ 十五日）
十五 植田宗平詩歌
十七 東京鎮府御達及水戸侯殿之写

二 後聞追録
四 北越陣中病院所在病瘡者姓名
六 全国諸氏自小千谷宮十日町從修崎山ニ至る
八 戦殁者賜賻之記
十 御詔文（江戸ヲ東京ト称シ鎮将ヲ置ルヽノ詔 鎮将府日誌第一所載）
十二 水藩越後路ヘ通行人数
十四 水藩兵通行一條ノ泉紀聞
十六 山口植田往復書写
十八 東兵通行中之記

帝國圖書館藏

大正 9. 5. 27 購求

ガラス使用

十九 田中救孝書束 八月十四日
二一 仝 金児銃頭寄家翁書 八朔
二三 仝 矢野倉謙兵書抄 八月七日付
二五 武敏八月九日書束
二七 諸軍分配三道攻口
二九 片岡富進筆記 （自七月 至八月十六日）
三一 仝 自三条宿営発書 八月十四日付
三三 桐龍八月十九日廿日書 附紹哲宮恭嵩進軍達
三五 武敏八月十九日書抄 附日記二冊 （起六月朔日 至八月十九日）
三七 越後国村々官軍禁札字
三九 西申八月十二日書束 附日記
二十 在越山本昇所送図説 （七月廿五日ヨリ廿九日 至戦争）
二二 仝上 八月七日付
二四 風聞記 八月十八日
二六 西申八月十三日自北越土口二平営発書
二八 金児砲長與富永新平書 八月十三ゝ十四
三十 在越桐龍寄佐小書 八月十日付
三二 稲垣平助平園氏政富ゟ委任達
三四 八月十九日監軍松平源太郎達浮医病院事
三六 金児砲長寄富新平書 八月廿一日付
三八 八月廿一日進軍之記 （廿一日ゟ 廿三日至） 久保成
四十 仝上廿三日書
四一 宇和島老公寄叔芳下親書
四三 雑説 八月廿五日ゟ
四五 北越十ヶ年在陣之節武敏与宮下書男書 八月廿六日
四七 武敏越後蒲原郡津谷宿八月廿四日発書
四九 中野中ノ条両陣屋支配地之誅始末
四二 醜説 （八月十五日ゟ 九月八日至）
四四 紀聞 九月三日ゟ 同四日
四六 紀聞 九月六日 同九日
四八 彰義隊大門田沢就勇報吹屯営事
○

ガラス使用

八月七日

㊀ 淫平話

七月廿九日朝宮原兄弟ト從ニ斉達ヒ夜粟名川ニ宿ス此村ニテ上田藩士ニ逢テ伝明朝ハ官軍大挙而北下長驅ヲ令ス秘密ナルヘシト諸藩士ニ斉ヒ告ク（宿夜郷村 矣ヘナラン）ヲ旅途ヲ延シ後ナル兵ト共ニ此所ヨリ五町ヘ行ク事ニ決ス 八箱十日町ニハ深沢ニ着ス等村ニ宿ス穿ヲ見ル（宿ハ昨夜深沢ヨリ此所ヨリ参ル 人ヲ遣ハシテ神主ニ尋ヌル）近臣ニ事ヲ致シ今ハ佐川ニ来ニ道ヨリ一ノ返リ路ヲ通リ遊行ノ遠トノ事ニ 此宿 村内ヲ廻リ得タル云フトテ相守ニ達シ十日町ニ有リ男女ノ佳人ヲ集メ集リテ此頃此宿ニテ別所ニテ皆ニ待チ居リ 西ニ在リ地蔵堂ニ一ノ近トノ事ナリ 之ニ行軍セシ顛末ヲ御旅ハ年月ヲ経シテ旅セシ宿ハ此古寺ハ大凡二百年ナル由後ニ至リ上ヘ之

○蓮形村奥書ニ佐川山本ニ貴重ナル詩有リ一丈 客人ハ必ス十日町病院ニ至リ松村ノ刀ハ大刀ヲ着シ解テ形ヲ付ス 道路ハ新ナリ谷ヲ通リ清水ハ幽邃ノ道路ヲ経テ

八月廿九夜ヨリ彼此自遣偵候之所ノ大略

一 此日ノ暁八ツ時頃二ケ所ニ矢大ト云程ノ二股竹吹ク内ニ松村ガ旅宿裏ノ方ヨリ鉄丸壁ニ至ヲ破リ抜ケ打貫テ来ル其跡ニ手巳ノ松村ハ打倒サレタリ従者カ夫ト許ノ残者ニ弱カヽト（久保喜兵衛　寿之トモ云）云タレ共実ハ腕ヲ切レ腰ヲ腕ヲ打貫カレ手ヲ負一人カシ抱キ一人肩ニ引立セ（一橋寺門前旅宿）旅宿ノ主人ハ今銃ヲ射タレ共（寿之ト云夫ハ之ハ思ハ　夫ハ抜ナルカ後ニ不知）去ルト云死骸従テ有シ胴乱ハ誰持去レルヤ三谷ニテ即ト不覚ナリテ松村ノ妙ト停テ今度ニテ暴ラ持遁見エテ

一 佐川ノ死骸ハ宿ニ人（様）倒レ倒テ九日長岡ニ得使テ此ヲ跡ニ埋ケリ　鉄丸ノ疵ハ頭ニ力疵二所アリテシト云刀ニテハ皆失タリ

一 此モ同所ノ死スルヤ背ハ二所アリキ　ロ此中（大日方某ノ所ニ十首ヲ書ケテアリ）

ろぞ有し七月七日記して始メ九七日ハ方一親ノ家ノ日付ノ日返ス故ニ後松村某ガ作所論ニ絶ル因ヤ其事ヲ人ノ口遺首ヲ送リ来ルト云中ヲ後ナリト云或ハ此手ニ起テ云ナルコト要得セシヨリ遣ルコトシテヤ其松村ノ如ク死ル後ニ評名ヲ洗ノ所アリ　ロ一説ニ下際ニ在テ死骸ハテ為シカラヤ前ヨリ色ニ中ニ其モ去ルト云

一 石村の裏ハ小川ニテ蔵田を渉ル水ヲ銭ニ手ニ来リ終ニ至ルよし

一 石村ニテ弾丸ヲ帯ル者ヲ首ニ船ヲ積タルヲ船ニテ賊ヲ奪ヒシテ　ロ逃ル時ハ三方ト云（舟ノ中ヨリ出ル乗ルト云）其ニ去ル後ニ長岡殿ノ北ニ至ル中ヨリ其ニテ半ハ還リシ我従者ヲ抱ヘ候アリテ落モ之ヲ追ツケシ不思行候トハ武気ヲ以テ従モト云小流ノ数ハ竹ニ径シテ其手飼ノ犬ニハ不怪シ大犬モ何ツ失ルカ不怪大犬ノ如ク毎年逃レ遇ヒ者ハ武家ヨリ役使セシ者ナリ　ロ其犬ハ忠ニ数人アリ只今其所ニ有ケル（夫モ有ルトシ）

一 浦附ノ方ノ山ハ如見ニ倉山手ニ達セシテ少シ宜シク秋ヲ徒歩ニテ守ル木立ニテ左右斜の岩ヲ賊モ放発シ長岡殿ハ不能還故ニ連山の腰ヲ往ク道ヲ甲ニ左右ヲ在ル元ハ其ニ侍ル家ノ三田大坂の真偶ハ此賊入所ニテ其ヨリモ放発セシ所ハ元ハ其引移ルモ至ルモ其中ニ腰のミヲ如見シ為モ其手ニ向フ候見エシ今切砲ハ引帰ル不失手ニ大砲ハ元ニ不引行故此度ニテ奪ふよし

一 廿八日夕刻榜示四ツ塚まて[illegible]大勢集り来り長岡ゟ一時追崩したり実正
ハ流言ゟ[illegible]又々出る大勢何ぞ分来りたる一切なきと云（流言ハ信なし云）

一 病院ハ十日町ニ引移し療病ノ兵ハ正念寺ニ疾病人ハ来迎寺ニ置ト云 [illegible]
苦也傷ハ不ハ兵も知る人多くし

一 敗後一時[illegible]ニ千夜[illegible] 劔香ニ千[illegible]人[illegible]ハ[illegible]
暁[illegible]角ニ而暁[illegible]村ハ[illegible]安部氏[illegible]一[illegible] 香[illegible]七八人
[illegible]草[illegible]或氷或[illegible]各自[illegible]ニ千人ニ[illegible]
[illegible]七日[illegible]
[illegible]ニ千[illegible]病院[illegible]此[illegible]ハ[illegible]
[illegible]

一 [illegible]ハ毎人ニ千金[illegible]を[illegible]も日[illegible]兵一人ニ宿ニ[illegible]
[illegible]

一 谷通り 小千谷ニハ[illegible]長人も[illegible]義判ニ而 賀[illegible]寺[illegible]を[illegible]ハ皆禁て犯し
[illegible]を不云[illegible]
十人を集めて[illegible]且[illegible]二人ハ難路ニ於人二人を[illegible]
ハ二人ハ[illegible]何故[illegible]ニ[illegible]覚[illegible]村益ニ[illegible]
十人ハ軍吏を生中[illegible]故[illegible]云

一 海軍新潟を攻[illegible]兵ハ十人を[illegible]越後[illegible]官軍[illegible]敗し
[illegible]賊ハ不残潰散し 村松も降服[illegible]官軍ニ[illegible]三
[illegible]

一 長岡藩兵ハ栃尾ノ[illegible]云[illegible]栃尾[illegible]
を攻[illegible]兵[illegible]右ハ中越[illegible]八木[illegible]
[illegible]官軍ハ[illegible]新潟ヘ[illegible]ト云 已上

八月八日

一　八月八日[illegible]州器械ト云鉄砲七千許当[illegible]徒党北下セリ然ルニ[illegible]
[illegible]

一　水戸兵隊六百人脱走ノ賊徒追討トシテ[illegible]田ノ部[illegible]
ニ[illegible]人ヲ[illegible]刻ニ[illegible]（小役人[illegible]来ル）[illegible]

[illegible]白川従軍追ヘル[illegible]発足セリ

一　今日北條[illegible]足軽[illegible]（弥作）[illegible]人数十八人

一　四[illegible]縛シ牢ニ入レ置[illegible]大ニ賊敗走[illegible]首十五取ル
[illegible]

（[illegible]）

一　長岡[illegible]印数千ヲ二列ニ並ヘ[illegible]天保年中ニ[illegible]古城
[illegible]
[illegible]

九日

計ハ追々集リ[illegible]
[illegible]

一　長岡[illegible]中屋敷焼失[illegible]官軍[illegible]建具[illegible]家[illegible]
ル[illegible]城内三万余[illegible]

一　長岡[illegible]甲冑ヲ[illegible]入レテ
[illegible]

一　八月[illegible]北條[illegible]小泉[illegible]八百余[illegible]四人[illegible]六人送還シ[illegible]
[illegible]太ク病院[illegible]
小泉ハ[illegible]

一　小泉ノ[illegible]病院ヲ逃退[illegible]創者
ニ病院ハ長岡七軒町[illegible]

ドヨ四ツ半頃慶長二人ハ紀伊ヶ鉄砲声近く響きて伴兄弟を窺ひ禍を欲ふ或ハ狂

を折の為薬を携へて一同ニ起立巡邏之処千手小泉ヶ香橋廿八丈五六ニて

小聲ニ若き者ハ大小刀を指させ凡長着ニ浅黄ノ襟ハ裏白色ノ衣ニ初ドテ肩ニ引て來る

ゆゑ名ハ一物もなく矢八田ヶ女ハ十六七ニ見ゆる中ニ引そ先ニ一物も持ざる

故大小を主の伴ハ見るもなく皆蓄ニ散乱セしとも各草本津の侍を心先て事を是

り浅黄も中く共まるを以て形容ニ事ノ見届ハ別れハ浅長ニ而船ニて鉄ニ当て

一白刃を抜て来りまて制止し此者ハ交へとも不聞ありて事ニおよふる頃ニハ今不得ち

水ニ浮て事ニ走ん此侍の致すハ遁るハ此も主の侍ニて只一人にて走りけんあらん此時

窮夜の形ハ見ヘて殺ハ喊声を揚て追来り鉄丸打止を命じて故ニて此致ニ云

死ハ浅手乃浅手ハ不叶侍兄弟れ以上ニ子細迫るハ右の脇の傷ニ死す致なんと

其侍なるハ小泉ヶ右の脇ハ叶ハ八ハ共ニ即死なし云 八田ハ胸を千貫ニ突んず此時脇ヘ出し

傷ヲ受ル故呼吸ニ後レ此所迄来らずして呼吸息きらして死残の心得ハなし侍之

これ岸ニ繋ぎ置し船ニ乗移り侍兄を避て此岸を離れんとするを追て

形ニ戻り小泉白中ニ在胴の鉢打あらんをもしらく揚ケられを見て又戻り来

り来る松代様之の船ニ乗組を吟味と云とて不角自他之ぬかりて辛くして後

り小泉谷ニ来り此ありけんとし（一捐金丸剣再ヒ破ハテ皆更ニ昔常あるうし）口古川ハ此火之下云頃鬼侍ニ其ニ伽ノ女浦霊ニ包ミ

来りて其女侍ハ浅手船場迄ニ逃れんと浜場ニ親類ニ隠れ来りて探ん逃られ女

ハ古川を引て来る所ニ傷ニ千貫ニ来りふ浅手ニ此度之トテ首を斫り持せ来りけりト云

一 一説古川ハ大二ニ胸ヲ千役業餘共ニ不通一言ラも不承シテ死する罪

甲ノ夫平善香橋ニ尸骸り浦霊ニ包ミ川端ニ荷セ見え不知在へかしこの時

肥太り見え士（此名不知しと云）来り見て形ニ首を挙て戻ヘ胴を水葬シテ小千谷ニ来り

夕ルしし上役ニ届けへしと云

一 参リテ防戦セシ者六十六人之内十二人死傷セ（姓名別録）此者戦フ事ハ前後ヲ忘レ防キ

ふ一ノ段ト云

一 小山新蔵ト申者負傷シタル兄ヲ薩兵ノ駆来リ打ル 生残ラン為ニ敵ヲ欺ケテ何某ノ兄ト云

イヤ〱生残リ生テ帰リテ之ト云テ敵ニ首ヲ与ヘテ返スニハイケヌト云テ直ニ首ヲ挙ケ

働キト思ハレヌトゾ

一 越後ハ今迄ヨリ十日町小千谷辺皆尾州御預リ所トナリ 但 御領 尾州御預リ所ニ請ケ示

（ハ未遣 行不届）ハ遣ハ起シ候人心ハ不悦伏或ハ取代御領ニナリ度ト云者アリトゾ 因ニ人馬徒

之示（罪）人ノ事ニ付皆義ヲ義判シテ尾州不預リ捨テ置ク 又尾藩ハ当ノ二三ケ所ニテ

四方ニ鎮メテ守衛ス 同所ニ於テ新発田ト云ニ出来テ取締リ方行届云々 （一ケ所 旅宿 [illegible]）

一 越後 若松ノ 兵 [illegible] 米ハ [illegible] 二十五日 [illegible] 云 官軍ハ [illegible]

又村里ニ官軍ノ [illegible] 夥シ [illegible]

㊁ 後聞追録

一 七月廿五日（九）中島ヘ引揚ケル宮下欽次郎ノ大砲進退谷リタルニヨリテ宮下ハ砲ヲ棄テ逃レシト

云所ニ居ル者ハ砲ヲ棄テハ不相済ト云 宮下ハ後日某如何ナル申立ニヤ逃ノ節僕ハ之ヲ

ア[illegible]ト云所ニ居ル長州ノ輩ニテ右左様ノ事ハ不相成ト云 長州ノ人数ハ直ニ側ニ在リ（ケ間敷ハ事ナリ）逃ル宮下

獨リ水ニ浸リタルトカ逃退キ残リ其余ニテ当砲棄シタルハ [illegible] 兵衛小泉 [illegible]（此人）

（又昨ハ何ヲ改タカ [illegible]）国任 [illegible] 一条毎ニ砲ヲ押上ケテハ九条千条セシ四閉シ

殺ハ引云 [illegible] 後ハ [illegible] 危ク助リタリ 後日宮下ハ [illegible] 求ニ行クト云 [illegible]

一 宮下ヲ得事ナレハ [illegible] 後ニ追 宮下ヲ [illegible] 者ト [illegible] 之 [illegible]

一 同時 [illegible] 蔵 [illegible] ハ四ツ九ツ [illegible] 夜中 [illegible]

ハラ敵テ敵ノ夜 [illegible] 官軍追撃ノ [illegible] 一 [illegible]

傍ラ畑中ニ五人三人連レテ [illegible] 者アリ 彼ハ敵ナラントテ拘ヘ [illegible] 発放セリ

不意ヲ打レ後口ハ騒セレタルト覚ユ 更ニ三十人計ノ所ヲ撃テ之ニ乗リテ長岡
再復ノ後近キ住人ニハ一人不案内ナリシト云ニテ内ヲ草鞋ニテ持参近セテ住ニ行リ迎
ナカリシ者モ有ソ 又 積シ畑ノ中ヘ捨タル大小ノ刀 再復ノ後探リ得テ不失ナリシト云

一 金弥話ニ七五日朝 賊亀崎砲台ヘ襲来ノ節長岡ノ方ヘ当タル所ニテ火ヲ放タリト 故進撃ヲ
ハ入ラサルコト之 数ノ敵兵ナルニト誠ニ浮腹ノ内ヲ敵兵ニ向テ戦シ如キ大勢ノ仕方長岡ハ且
直撃候ヘ乱レタリ 翌其六日ノ朝諸台場ヨリ引揚ト 故ニ出ニテ引揚テ歩兵数ハ一ノ筋
トヲ其数十人内ニテ打引揚テ来リタル故 録台ノ所ニ持モシ損ヲ受ケ恐レテモ有リシ由

一 内川出ハ信田 弾薬方獨役 大小 諸台場引揚ニ 信濃長ハ進退ノ拠ニナリ 士気ニ共ニ
自ラ銃ヲ執リ自ラ台ニテ放発シ去ラシタリ 其内長岡藩 松代ニテ今引揚ラレス 引揚
ルトハ出来ラヌ故信テ引揚ナリタル 其時手兵弾薬方ヲ発砲 致ヤ拠
稀シ云毎事ヲ（金弥長直共云弾薬ノ餘石ノ如ク多アルニ干謂ク此方長州ノ千余僅ニ御之ヲ補充候シサハ事実也）倍引上ケノ道新町迄ヲ

或先ハ四ヶ所弾ヲ雨霰ノ如ク今ニ打殺サルヽカト思フ程ノ苦心ヲ尽シタリト云

一 金氏云此節長岡ノ道路ニテ官兵不案内ニテ難義シ遣ス母子ト大垣藩士一人会セリ
軍夫ニ従ヒテ喜ンテ来テ賊ニ逢シ 此時ニナリテ長岡ノ兵此所ニテ賊ニ殺サレタリトテ泣タリ由

一 又云サテ引ヨリ敵ハ台場ヨリ来テ砲ヲ打チ其時ヨリ來リ一同ハ来テ泣キ屋
近キ辺ノ者ニテ見タリト云 来タ程ハ不知ト云

一 信氏云此辺ハ賊ノ所ニテ弾薬ノ大砲弾薬多ク持チ来テ死タリト云

一 錦手吉蔵ト云者ノ語ニ此辺ニ一度ニ賊ノ砲弾一発ヨリ来テ其内ニ住居ノ者負傷シ
済タリ 勝手ノ死骸残リタル土人ノ話ニ今ニ残リタリト云

一 又云 敵ヲ追撃ノ際 割テ中ヘ来テ追撃セ来 向テ逃テ行ニ 参謀之ヲ殺 四挺ソヘ了
ハ其事ナリ

一 兵器方油菜（スカトウ）ノ内信ノ由浦瀬ニ於テ兵器ヲ損シ十八ヶ所銃器二挺ヲ寄附宛

一 ウテラ保リテ書面ヲ此引揚ケキテ棄テ置タル大ニ狼狽セリト云 官軍屋舗方来ル
有ヒ尻此ヲ役エ人軽浜ノ時ハ嶋ヲ見殺ニ致シ斯遺スルヘクニテ見ヘル新ノ家ヲ
一 故此新發役ノ好計ヲ存スルナラ也
一 此長岡ニ郡兵ヲ與ヘタル時ハ同藩諸人ノ大小刀ヲ取リ置キ時横矢セリ共待也主事ノ刀脈
并二十五ヲ所置シテ通シ見ヘ十二月死去者ヲ持リ見ヘ其見ヘヘ渡ス後ナル一ナリ
一 二千五百以下之トテ兵トモ皆金ノ為ニナル之道ヲ貫フトモ人ハ識見セル也此ハ義論ハ
一 此時新ニ桂窓ヲ置キ見ヘ科治療之益三十八（一説ニ二千五百ニテ此各 兵ノ入之四一六此學ト發言）摩挂泉ニ發ス
三ヶ兵千五百ヲ一テ手ヲ打キ之テ病ヲ兼之 又云此人ヲ為ル金ハ為ルル取リ次テ九十八也
宜シキ方ナルヤ

㊂北伐死傷調

四月廿五日飯山ニ於テ戦争之節
薄手 大滝方 清水一郎右衛門
討死 物頭 金子支大夫組 小銃足軽 小沼長兵衛 （四十二歳）
〃手負 〃 中野熊治郎
同月廿六日越後羊坂口雪峠戦争之節
〃手負 戦士 吉澤十次
薄手 〃 寺田文左衛門
討死 （小林長兵衛組 当所 文吉） 支之丞
嘉五郎改名ス
負人村ニテ深入致
死生不知
八月三日討死之趣、
足軽奉行ヘ申達
五月三日於見峯峠ニ
討死 戦士 荒川吉太郎 ○

○〃手負 大滝方徒士 今井守太郎
五月十一日於三條生
〃手負 （死） 物頭 金子支大夫組 小銃足軽 ○荒田人主蔵 （四十一歳）
五月十二日於榎峠雪山
〃手負 （日）松村彦次郎組 〃 小林彦之丞
五月十二日於同所
〃手負 大銃方徒士 松崎志喜博
〃手負 （日）牧野大吉組 馬木芳大夫 （日誌作探内 玄治）
五月十四日於乙乗村
討死 吉村左織組 小銃小頭 ○相澤兵次郎 □

ガラス使用

口右同日於榎峠前山△
深手　大砲運夫　下奥嶋栄九郎　壱人
一業寺中作
右両人相成ト合
五月廿八日於与板原村ニ而
手負　口牧野壱岐守組足軽　小野小平郎
五月廿九日於同所
薄手　藩士　林榮之進
口　番頭菊池左門家来　宮下銀平
六月朔日於同所
薄手　藩士　牧田芳太郎
同日於与板北山△

薄手　物頭杉枝彦四郎組小銃足軽　野澤岩作
討死　上相山村末吉十九才　口夫壱人
右同日於杉澤村赤坂峠戦争之節
討死　東福寺村伝次郎二十六才　口夫壱人
手負　檜田村和蔵　口夫壱人
六月二日於与板北山口
薄手　杉枝彦四郎組足軽　重喜十郎
六月五日於与板及手村
討死　和作壱番甚五郎　口夫壱人
六月八日於比礼峠道
深手　物頭　山越新八郎×

又後六月九日於与板原村
深手　物頭　牧野大右衛門　二
前同八日於塩之崎戦争之節
手負　大銃組足軽　吉下甚吉
同十二日於久田村戦争之節
深手後死　藩士　○増田將曹
薄手　〃　渡辺富蔵
討死　物頭金児友太郎組○足軽　小林源八
深手　大田人足　芋村伝兵衛　二十才
薄手　七雲寺　夫方常太郎　人足壱人
六月十四日於与板原村戦争之節　二

物頭牧野大右衛門組足軽　北澤千代蔵
同十五日於杉窪峠戦争之節
深手　遊撃　金井鉄之丞
〃　夫壱人　文吉
同十六日於与板及手村
深手　牧野大右衛門組小銃足軽　浅井佐三郎
同廿二日於羊蔵金村戦争之節
深手　同付〃　篠崎源五郎
〃　遊撃　八田春吉
手負　物頭塚川賢之助組小銃足軽　山中文吉　太
深手後死　村松沢之五郎
口七月廿四日暁長岡病院ニ在て退不得こ
卅

七月十日浦池ゟ比礼岸
小銃打ゟ四隊
手負　中村芳三郎
〃　〃　井島藏
七月三日　吉村夫卒
手負　民弥
七月三日夜　於松川哭三郎
手負之手負作

廿

深手　討死　中澤郁治
〃　岡田多之助
手負　吏之人　弾薬運夫　嘉吉
七月朔日於口河原屯所
手負　於兼場　〃　小流　西村岩次郎
同三日於同所　口討死　大砲組　〃　春原孫彦
○即死　〃組　中曾根良作
深手　手負　〃組　中川八十郎
同廿日於同所　〃　小林孝太郎
○即死　〃
手負　手疵　於大門村　仁兵衛　五十六　☒
同四日　討死　松川哭三郎　作本作治

七月廿五日於石州　七月廿六日　七月廿七日　死　手負　淺田徳三郎　右足首
☒　手負　小幡助市
〃　安野寅男
〃　前田角次郎
〃　樋口豊男
○深手行方不知　討死　後日病死　佐川彦之丞
○〃死　両刀を失ふ　杉村伴太郎
○討死　後日病死　山本要次郎
○深手小千谷ヶ坂　後死　小山新蔵
手負　同　議之助
〃　足怪　鉄島菊治

〻

深手後死　小幡助市弟　小村助作　善
手負　安野寅男弟　飯島　あ次郎
〃　人見之人
同七日
○討死　駒ヶ岳へ寄之先　西山良輔
右腰銃丸疵　吉野組　滝沢島蔵
深手　右肩ゟ背疵　小銃之　長井定次郎
深手　額ゟ左へ穿　深手　桂川村百姓　大三才　三之丞め
右腰前ゟ後疵　軽手　伴蔵
手疵　駿河　人見之人　全夜
同廿六日　☒

☒
○九右深胃打切　五ト六ヶ所薬アヒ　吉村組　〇七月廿九日死　吉川豊次郎
右ノ手疵　立明　栄八
右腕深手　銃士　斎藤亀作
右腕ゟ横腹へカスリ　小銃隊士之丈　利　別作
是迄之手負人ハ悉ク小千谷江引取療養
右之外無数手負
○深手後死　深手　七月七日　小銃　浅太郎
〃　七月十九日夜中　吉川孫治
〃　七月十九日夜中　大島孫之助
〃　中島宗蔵
○討死　安河忠蔵
深手　於小千谷東村　高井栄司
☒

ガラス使用

日前ニ相不

〆○一　即死　森山熊之助　七月十九日夜中

○一　手負ニ而　敵并御迎ノ者ニ被捕　岡澤要之助　手負　大田方孫三郎

七月十九日於宮田村　手枚原村外レ自陣墓場ヨリ午於道上膝節ヘ

即死　松浦千嶋之助　三寸下リ向膝ヘ後ニ而手疵ト不深手ニ付

於手枚原村　敵并御迎ノ者ニ被捕　直様病院ヘ引取養生罷在候處快方上

○　討死　中敷　恒之助　小頭

○一　花山　五郎八　七月廿九日　竹内友馬

○一　栗林　吉弥

○一　八町　源之助

己上九十二人　内　死者廿九人　但十日町病院ニ在者并名簿不合

㊃北越陣中病院病者姓名

右股前横ヨリ後ヘ抜　骨ヲモ打抜　海野寛男

右二ノ腕骨ヲ打抜　前田角次郎

右膝四下骨サヘ欠　下ヘ横ヘ抜　大目方孫三郎

左腕引ニ剝抜　樋口豊男

右胸ヨリ肩ヘ抜　金子鍈之丞

左胸ヨリ肩ヘ抜　小山新蔵

右胸ヨリ肩ヘ抜　八田右吉

中川八十五郎

中村由三郎

金子富蔵

十日町ノ徒宗　病院　二ノ宮寺　（小泉浅右衛門所記憶云　口此寺ニ在者七八十人有之病者并ニ不残二十人来ル下ナリ）

右腕中程ヨリ先ナリ　小嶋助二郎

左ノ腕切レ落ル　山越新八郎

屍　竹　條崎源五郎

右手ノ甲カスリ　安藤亀作

左ノ腕肘ノ骨内ヘ二ノ腕ヘモ肘　後ヘ弾丸（玉当ル処実弾数處口ヨリ）　小泉浅右衛門

右ノ肩ニ至抜　小山謙三郎

病気　東光寺　堀内兵之進

山中文吉　太

三宅支作　重

岡田多之助

五明宗八　七月廿九日死

飯塚菊蔵　宮澤豊三郎

永井宗之郎　[illegible]　飯嶋安次郎

永井粂太郎　竹内友太郎

小林錦蔵　野末源兵衛

夫　長次郎　[illegible]之助

嘉吉　利作

文吉　七作

磯太郎　市五郎

七月廿三日晩石留ニ而　佐川彦之丞　幸作

松村伝之助　以下九日長岡遊撃隊ニ而討取　松澤千之助

山本重次郎　桂次屋敷ニ而　西山与四郎

与板百姓ニ而　青山熊次郎

深手ニ而大出晩死　古川栄之助

討死

---

⑤　矢助寄金続書

昨日古正寺村近辺ニ賊多数賊ハ近辺ヘ更ニ集リ昨夜報知之跡ヲ比蔵堂近牧野手遣之杉桂隊ハ比蔵堂ニ先キヲ軍勢ヲ不近進之ヤウニ而昨夜遠方ニ而砲声夥多キ事ニ之有之三条之戦争之ヤウニ而杉尾ニ官軍入込ムヨシ之由ニ而今朝ハ元国氏兵粮之為メ付ニ出張之様之由ニ而当国家中之者昨日見付ケ候テ出張ヤト右次第ニ付多分之手配之候而向フヘ兵粮方未タ之不申遣シ一刃之乱レニ付[illegible]被成之候ハ段々[illegible]也被成之申候[illegible]之[illegible]一[illegible]ニ而[illegible]人ニ遣シ一[illegible]申候以上

八月三日　[illegible]

古正寺ニ而
[illegible]

八月十一日

八月朔日夜　⑥
一　大川津追進軍　是迄岸村出張　七番口番手　一い　小嶋谷追進軍　牧野組　柘植組
同二日
一　鬼郎森追進軍（地蔵堂より一里）　七番口小番手　一い　赤田追進軍（地蔵堂より二里）　柘植組
一　地蔵堂迄進軍（与板より三里）　牧野組
右八月四日小千谷岡野氏より十日町筆崎氏へ到来

⑦
一　八月十一日午後我[illegible]（与板組　四百文）　着田長岡ヲ取備ヘ後戦争急ニ賊ハ八十里
越ノ方ヘ逃去タル様子本営始メ三條ヲ本営トス其後六千[illegible]我兵合隊ヘ
ヲ攻入テ[illegible]未定田追ヘ三條ヘ一ノ木集官軍[illegible]
○賊三條ヲ去ル夜具ヲ焚キ[illegible]ヲ誅シ[illegible]官軍ヲ困シ[illegible]
夕九ツ

ガラス使用

口惜キ大黒ノ暁 不図モ賊ニ襲ハレ家ヤ荷物ヲ焼賊ノ積之人足ヲ尋ルト一人モ

無之ニ付賊兵船ニ乗リ追ヒ来リ候テ川端ニ至リ候処賊兵ニ逢ヒ水底ノ芝草

ニ隠レ辛クモ対岸迄泳テ水ヲ渡リ免カレシト云 然ルニ其内ノ一人ハ在所ニテ実地

新田ニテ失ハレ人足一ノ首之之

一 八月六日北越発途之時ハ長岡藩ハ三條ニ在リ 一隊兵（新発田 近兵）ハ村松ニ在リ不申

新潟ハ（米田）

一 長岡ヨリ官軍攻撃其時川井継之助足ヲ傷キ戸板ニ乗テ退キシカ朽木迄テ

ハ来ラレタル由山野ニテ病死セシト

一 山本五十郎殿ハ炭焼中ニテ連日乱闘ニ及ヒ全役ノ見ヘシ見ル一度ヲ得タルト

其闘乱中ノ雷ノ音ハ皆雷撃ニテ火薬ハ一切不発ニテ其ノ下ツ不思議のよし

回向料五両

五月廿四日越後於テ榮村戦争之節討死

御城番 相澤辨次郎 地

同三両ヽ

東福寺村役元子 浅平

上祖山村 末吉

五月晦日越後表戦地ニおゐて之御銃丸ニ而討死ニ付 被下

同五両

足軽 小林源助

六月 右之者當十一日越後於出雲崎戦争之節討死ニ付待事 被下

同三両

和佐屋村 甚右衛門

六月 當十八日越後地ニおゐて銃丸ニ当リ相果候ニ付 被下

同五両

足軽 藤田金蔵

五 右去月十一日越後三仏生村ニおゐて戦争之節銃丸ニ当リ 天

右疵ニ而死去致候ニ付 被下

増田将曹

六月十二日 同人ニ而疵負右疵所ニ而相果候ニ付銀子拾枚霊前へ

五両

足軽 春原孫右衛門

七月 右之者當朔日越後亀崎戦争之節致討死候ニ付

為回向料 被下

五両 〃

中曽根良作

七月 當三日出雲崎討死

五両 〃

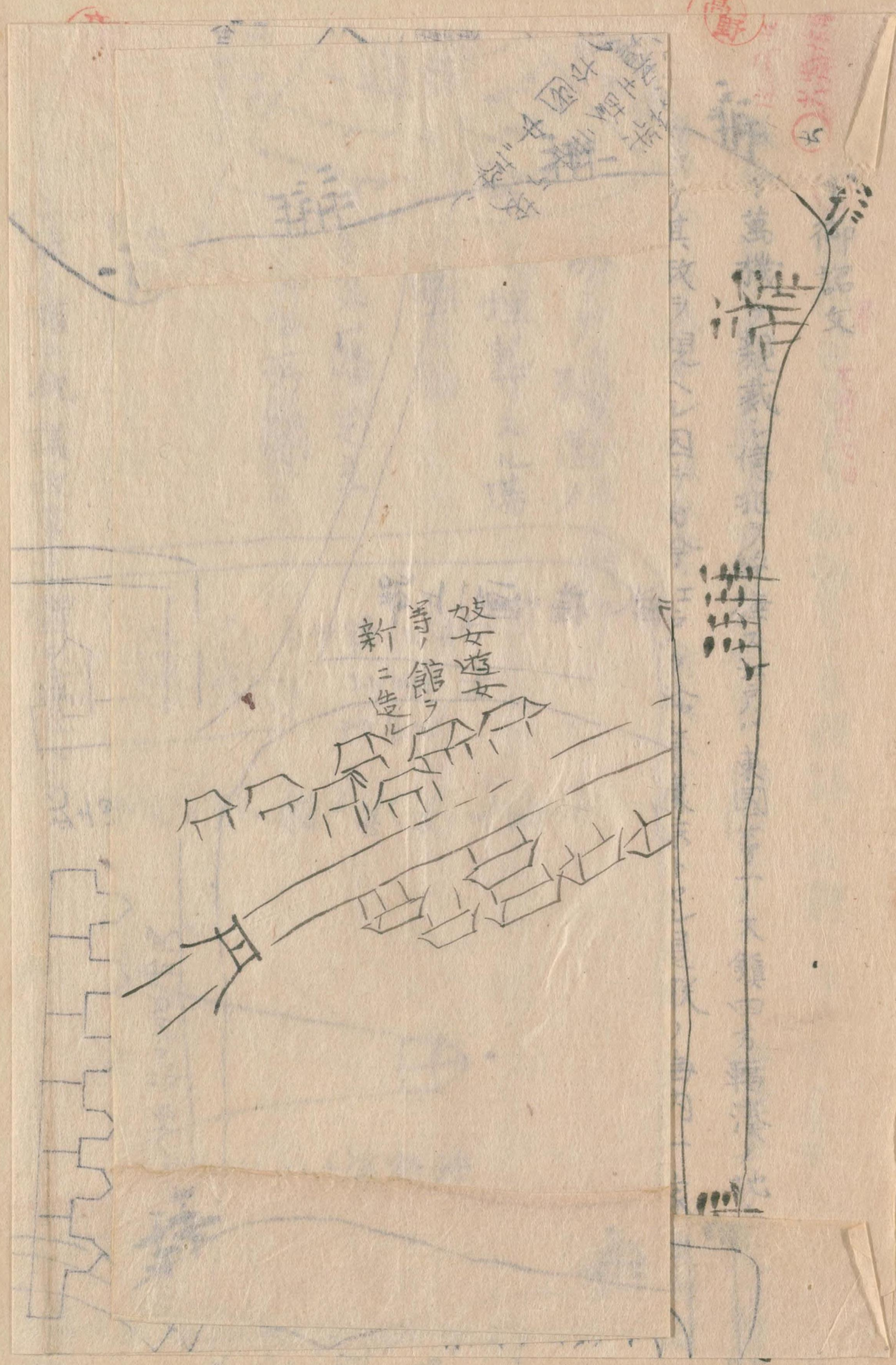
佐々木作治

七月 半蔵金戦之節

五両 〃

小林孝太郎

七月廿四日 出雲崎戦争之節



五両

雇組足軽
岡澤要之助

与板戦争之節

五両

下座見
小林喜五之助

右之者雪峠戦争之節

銀壹枚ツヽ　九両

一 祢津千葉之助

西山良輔

銀拾枚ツヽ　七両弐分

佐川彦之丞

松村伝[illegible]

青山熊之助

山本直次郎

弐千五百疋ツヽ　三両弐分弐朱

一 古川嘉業治

海沼忠蔵

宇敷恒右エ門

丸山五郎八

五両ツヽ

栗林吉弥

八町源蔵

五両

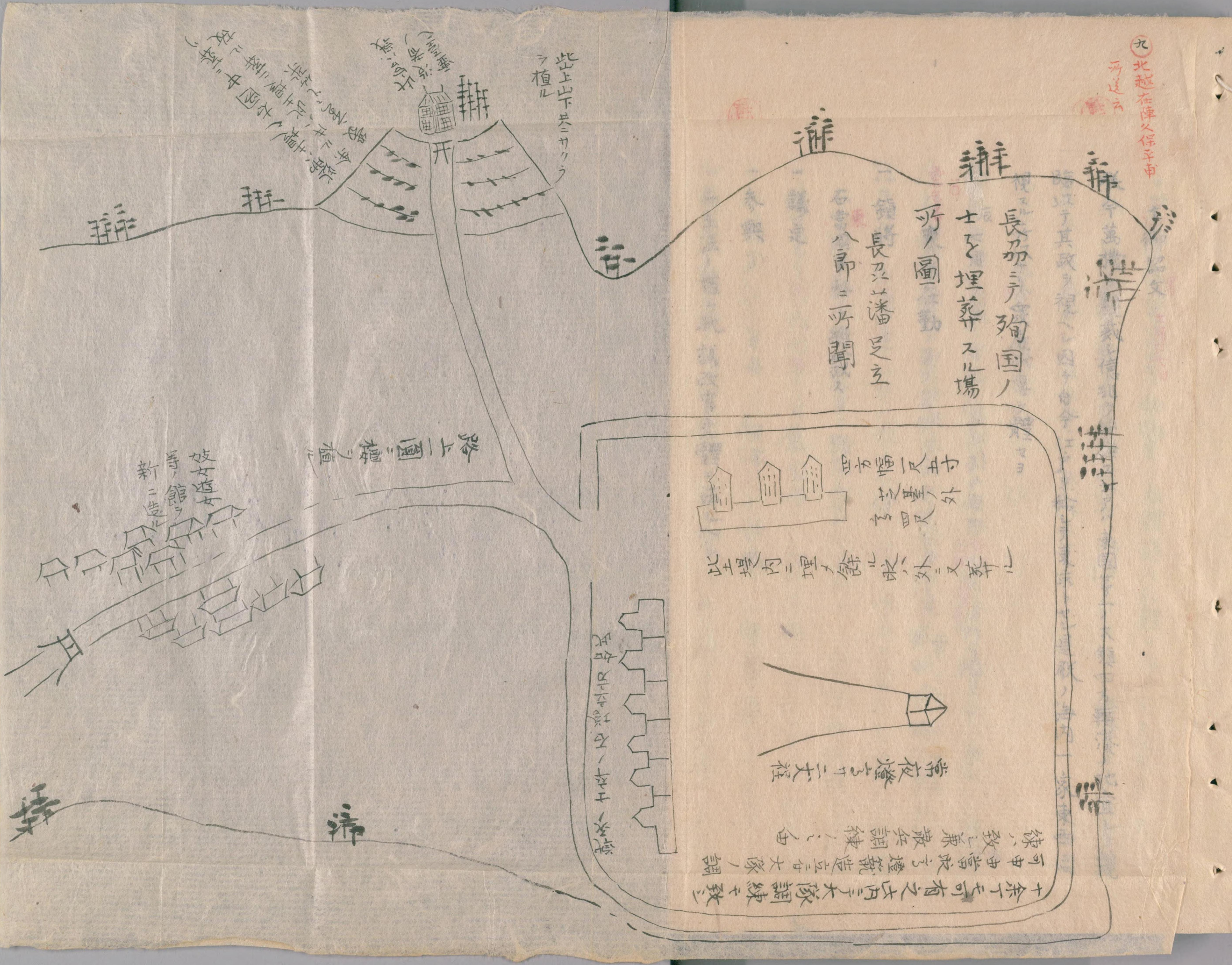
小隊取締家来
小林助蔵

ガラス使用

九

北越在陣久保平甫

所送云



長岡ニテ殉国ノ士ヲ埋葬スル場所ノ図

長岡藩足立八郎ニ所聞

此上山下共ニサクラヲ植ル
此辺、墓 没者（三間四方）
此場ニ土堤ヲ築キ大図中ニ葬リ
余ルハ此土堤ニ葬ル
要害ノ葬
路上両側ニ欅ヲ植ル
新ニ造ル 旅籠屋 等
士卒ノ石塔立所如此
常夜燈高サ二丈程
十余丁モ可有之土内ニテ大隊調練ヲ致シ
可申由当時ハ三ヶ所ニ分テ大隊ノ調
練ハ致シ兼兵隊調練ノミノ由
此土堤内ニ埋メ餘ル屍ハ外ニ又葬ル
四方幅一尺五寸
高サ四尺
甚之墓ノ外

十御詔文（七月十七日）

朕今萬機ヲ親裁シ億兆ヲ綏撫ス江戸ハ東國第一ノ大鎮四方輻湊ノ地宜シク親臨以テ其政ヲ視ヘシ因テ自今江戸ヲ称シテ東京トセン是朕ノ海内一家東西同視スル所以ナリ衆庶此意ヲ體セヨ

辰 七月

一〇 御告書
東京在勤

一 鎮将
右（東）當國事務ヲ總裁ス

一 議定

一 参與
右立法ノ權ヲ執リ議政官之體ニ法ルヘシ

五両
雇組足軽 岡澤要之助

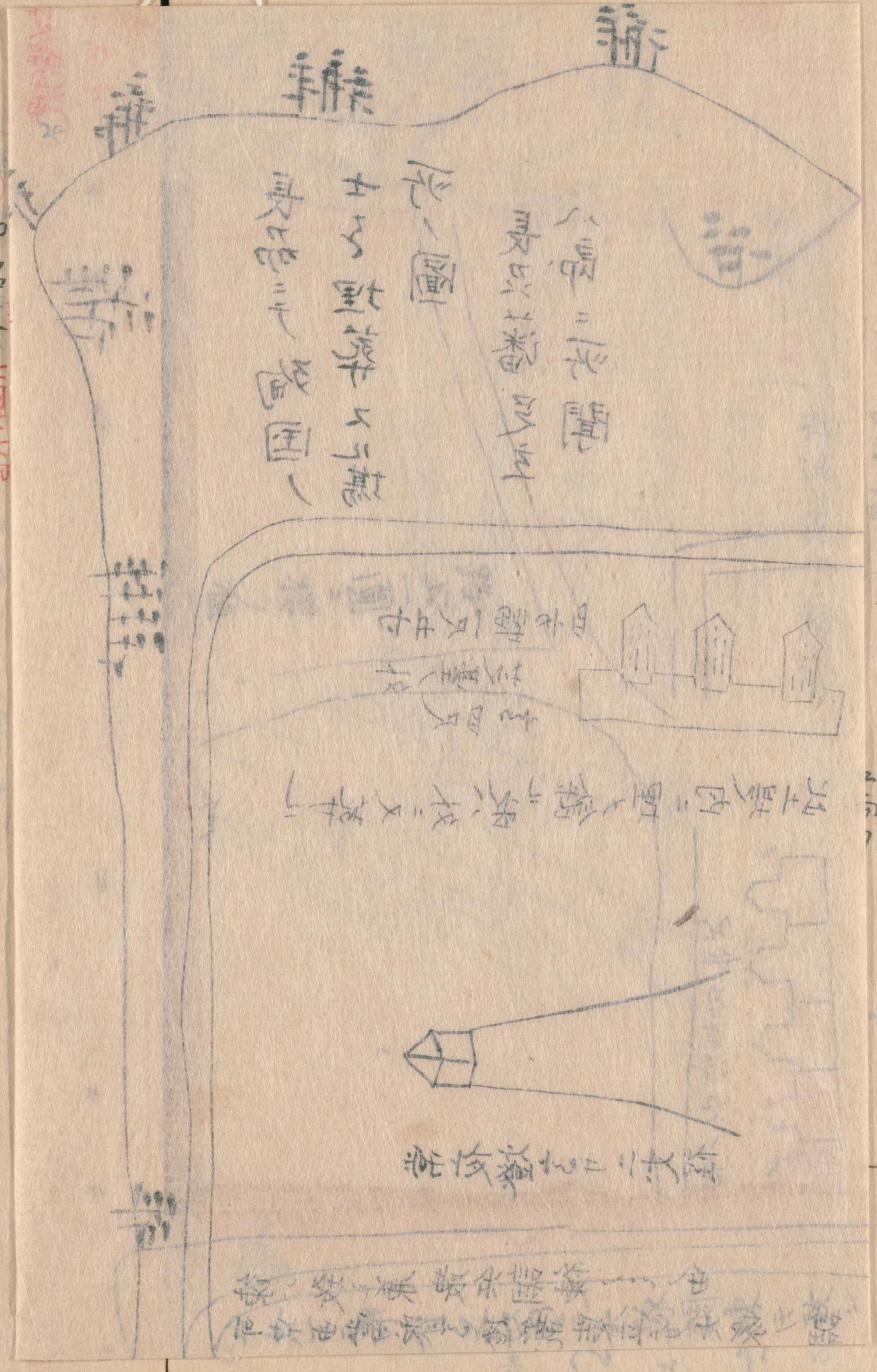
弐千五百疋ヅヽ

一 古川嘉業作

海沼忠蔵

宇敷 恒右ヱ門

北山 五郎八



五両
下座見 小林喜五右衛門

当板戦争之節

右之者宮崎戦争之節

ガラス使用

二〇

一 判事分課

諸侯　軍務　社事　刑法　會計

二〇

一 辨事

右行法之権を執行政官之體ハ法ルへし

一 史官　筆生

一 右鎮将被差置東國政務御委任被　仰付候旨　駿甲豆相武房上下総常上下野奥羽十三ヶ國管轄致し諸侯之事件ハ至近従而取扱可申旨尤大事件ハ時々奏聞ヲ遂ル様被　仰出候事

一 東京府　知府事　判府事　権判府事

京摂ハ申ニ不及諸府縣ニ至ル迄政務一定之規則ニ為立候　御趣意ニ付従是認語可致候様被　仰出候事

但諸藩ニ於テモ　御趣意ヲ奉體認大政體ニ法リ追々改革候ハ天下一定之規則相立候様心得可為肝要事

七月

一〇

慶長年間幕府ヲ江戸ニ開キシヨリ府下日々繁栄ニ趣候ハ全ク天下之勢斯ニ帰シ貨財随而聚リ候事ニ候然ルニ此度幕府ヲ被廃候ニ付而ハ府下億兆之人口頓ニ活計ニ苦ミ候者モ可有之哉ト不便ニ被　思召候殊ニ近来世界各國通信之時態ニ相成候而ハ専ラ全國之力ヲ平均シ　皇國御保護之目途不被為在候而ハ不相叶事ニ付屢東西　御巡幸萬民之疾苦ヲモ被為問度深キ　叡慮ヲ以　御詔文之旨被　仰出候孰レモ篤ト　御趣意を奉戴し徒ニ奢靡之風習ニ慣レス再ヒ前日之繁栄ニ立戻リ候

ガラス使用

之希望ニ一家一身之覚悟不致もの多く遂ニ活計を失ひ候もの有之ニ付向後銘々相当之職業ヲ営ミ諸品精巧物産盛ニ成行自然永久之繁栄ヲ不失様格段之心懸可為肝要事

七月

---

⑪八月八日夜矢代宿問屋松崎八代司ヨリ道橋方ゟ届

此節ノ判已ニ其判有之字面両氏早追ニ而上州ニ赴タリ

一人足二百人（一、百弐十人）

一本馬二十疋

右者此度脱走之奸臣（徒）為追討山口徳之進始兵隊六百人余明十八日水戸出立越後国高田迄致通行候条前書之通人馬駅々無遅滞差出可被下候以上

七月十七日出ス

水戸
目付方

従水戸
高田迄　駅々問屋中

休泊附左之通

休　七月十八日　松崎
泊　笠間

休　同十九日　（下野）小貫
泊　飯村

八月朔日 七井 石橋
同二日 小休ナシ 宇都宮
同三日 安塚 壬生
同四日 富田 佐野
同五日 梁田 上野 太田
同六日 堺 玉村
同七日 高崎 安中
同八日 松井田 坂本

信濃 八月九日 軽井澤 追分
同十日 小諸 海野
同十一日 上田 戸倉
同十二日 篠井 善光寺
同十三日 新井 町 牟礼
同十四日 野尻 越後 関川
同十五日 小田切 新井
同十六日 高田

追觸

此ハ濃富山浪某所持来云

人足百七十九人

馬 弐十疋

右之先達而人馬之儀未達置候得共此度前書之通尚又達候条
数々無遅滞可差出候以上

水戸 目付方

十日

一 右風聞ニハ此者共ニ指揮致来り其外水戸数を不致と云

一 或ハ上州川々洪水ニ而差支遅滞或ハ三国通江移り而此戯ニ赴候趣ニ而不旋

一 八日ニ藤井ニ而甲州上田小諸ニ使し九日夜四ツ時過頃ニ而両藩ニ而水戸
ハ朝敵ニ付謝之諸士一人ニ而も多人数ニ而道理之事を好候を水戸ニ而申付
スルニ付之ニ而ニ至疑ニ而も容内ニ而も疑之ニ而も理を説候ニ付左之
有之ト云上田ニ而ハ村銭其外三百文と手続ニ而急之ニ而ニ付小諸出之指揮
力無之と申満ニ而も持ニ而も私共云ニ而何ニ而も相談致ニ而も之

一 竹村屋（一場茂右衛門）又早ニ而者侍衆ニ而行々ニ而手紙ニ而〇並其ニ而之も行候云

一　八月十四夕従国千吉江戸ゟ罷着（若殿様御足止[illegible]）水戸兵隊通行之事上州也

兼而先鋒ニ而参騒動被仕候元水戸ゟ今年ゟ出張ゟ合宿ゟ神高崎ニ而軍鑑七張

為其事之趣ニ而[illegible]軍勢[illegible]在之申ニ而[illegible]高崎ニ而[illegible]

之中[illegible]細有之[illegible]右所ニ而押留[illegible]

外[illegible]之由[illegible]

一　十一日夕景白川[illegible]之候義ニ付[illegible]乗馬[illegible]兵[illegible]己之金[illegible]

一　[illegible]代之改[illegible]通行[illegible]

---

⑫水戸藩越後路ヘ通行人数

山口徳之進　上下十五人　馬壱疋

目附属　六人

合図役　上下三人

醫師　上下四人

奥右筆　上下弐人

長谷川作十郎　上下八人　馬壱疋

会計方　七人

軍用掛り　上下五人

目付役　十弐人

岡田[illegible]義　上下六人　馬壱疋

御堅隊　三十五人

御[illegible]隊　七人

川村和太郎　上下六人

[illegible]先鋒隊　三十五人

久方度助　上下六人

[illegible]先鋒隊　三拾三人

服部久吉郎

村田長三郎　上下六人

目附方　上下廿六人

目附方下宿　拾四人

里見直之進

谷　亀治郎　上下八人

酒泉大三郎　上下弐人

遊軍副長　七人

遊軍隊　上下三拾弐人

ガラス使用

鳥井沖之進 上下三人　　遊撃小隊 三拾三人　　同 小長 拾人

新美乃副長 四人　　一番 遊撃隊 十七人　　同 護衛隊 廿二人

新美乃隊長
新美乃隊十六人 五拾六人　　二番 同 拾五人　　梯子護衛小隊 二十人

小池千太郎 上下三人　　三番 同 拾五人　　兵食方 七人

教授方 壱人　　四番 同 拾壱人　　築造隊 七人

旗護衛 上下三人　　輜重隊長 壱人

〆四百九拾人
三匹

⑬ 近頃聞記

一 水戸浪士通行之事 去ル[illegible]十二[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]八十日[illegible]中ノ[illegible]行[illegible]上[illegible]十二[illegible]

[illegible] 軍曹 植田[illegible] [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

謀[illegible]長山口[illegible]之進[illegible]行[illegible]

山口[illegible]其行装供士廿四人皆手桃灯ヲ携ヘ[illegible]十人ハ旗亭ニ[illegible]

十人ハ[illegible]四人ハ[illegible]

未聞一件此ノ兵隊ニ而寄ヲ依頼シ御存知ノ騒走柳蔭隊（二万人ト云）追討被成候ニ付出陣

ノ所ニハ我等ニ於テ無ク此頃勢ニ付ト而今一戦ニモ及ヒ候処ニ外ニ存ス兵ヲ新ニ集ハ山口

ニテ故ニ御存知候ニ至ル而　東京都管内ニ兵ヲ送リ他ニ官国ヘ出スヲ被許ハ東府ノ保スヘ出戸人モ道ヲ不假仮無兵ヲ率テ浪人ノ国

シ横行スル不礼ニ至ルヤ　後戯ナリテ待ルハ之ノ辞ヲ問ハルヘカラス

一　戎装ハ信玄形ノ陣笠（白絵ヲ柱ラレテ紺ト紅ノ編込ミニ而）皆陣羽織背ニ○大ニ山し之章アリ

テ二様之割留ニ勢又己ノ章ト三ッ紋小手モ袴アリ得道具ハ槍ト長刀ト

凡半ニテ槍ハ鞘ヲ外シ相向テ鏡ヲ包タリ

一　去ル八千人之内若黨ニ貫ト二人ヲ以テ（肚年ノ人ヘ）従者七百人ハ是ハ所謂天狗組之ト云

一　西山ニ宿代相ハ宿ス三百ケ所ニ篝火ヲ焚キ伏火燈ヲ掛ケ巡夜シ殊ニ備厳ニ

為シ居レリ　（行軍夜営ノ定法ニ誠ニ然リ未入郡主従藩ノ封内ヲ〆め行スハ手礼ニ似タリ○当分ニテ人ヘ在ルヤ尚戎装ヲ不為ハ彼国ノ為之況ヤ王土ヘ行スヤ）

一　宿代ヨリ山口ヘ二人ハ様子窺ニ参ヲ為シ行カレケリ

一　中ノ條ニハ後届キ合併四人宿付ノ河野某ト之人合七人ノ内右ニテ又宿ヘト伝シ近ク

此越ノ引揚隊ニテ申来ル数人有リト云越後辺ヨリ人数ヲ遣ス由

一　三田香西ハ直ニ御存知之通リ宿ヲ定メ居タリ柏崎ヨリ四日陣屋ニ相詰ノ為ヲ御渡ヘ

ヤヤ寺ハ不足ナレドモ之是ハ四日ニ着テ田ハ宿付所ニ引上ケ而今ハ陣稼ト居ル

一　當夕此方ノ士四人出雲ノ事ノ道ヲ定メ出口ヘ参集鳴山ニ登リ岩野下ニテ

古戦場ヲ経ヘ行キテ追ニ右村ニテ宿代与役定メ其松代ヘ出シ急ニ追シ此方ノ役人

為ニ山ヘ出タル云従者一時相分レテ今夜暮行ヨリ夜中放浪シ帰ルニ至ル

一　有リ行夜陣所ヲ経テ彼ヲ皆ヲ打テ村民ハ陣中ニ備レ居ヨト思ヘリト云

一　當夜一騎ハ松代ノ陣ヘ夜半ニ到ルハ此越ノ仮リ直ニ夜中ニ来レト行シニ當番ノ衆

此ノ宿代ヘ此方ノ在ノ内ノ者ヲ此越ヘ早道ニテ行ニ到リ陣ノ番ヨリ仮ヘ引返シタル由

ニテ俄ニ好文山ニ帰リテ一宿鶏鳴ニ吹入ラレテ此越ノ峰雪ヲ見テ通行ベシ

一説ニ長岡夜襲ニテ稼キヲ失タル由ヲ諸隊鉾借ヲ致シ出タル一條ナリ此下アリトモ云未詳承

一 中秋ノ朝五ツ時執政 [illegible] 参政（鈴田岩玄）及岸太早追ニテ北陣営ヘ赴キシ由 [illegible] 一意ヲ傾ケテ [illegible] 出兵ヲ [illegible] ヲ許サレズ而シテ本営 [illegible] 守衛 [illegible] 来リテ [illegible] 故ニ此行有リトゾ不審ナルコト

一 十日頃十三日頃近官軍長岡ト云 [illegible] 三百 [illegible] 北越ニ送移セリ長岡ニ至ルト見ユ官軍ハ新発田ニ入御座一来リタルナリ

一 十五日中ノ勢ハ善光寺宿陣ニ参ス北陸道総督参謀三宮耕庵来リ会シ伝ヘ云北陸道 [illegible] 官軍ニ [illegible] 逆賊 [illegible] 元交追入 [illegible] 何方新発田ニ北陸 [illegible] 命令ヲ奉ジト [illegible] 衛ヘ [illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 八一 [illegible]

○ [illegible]

一 千 [illegible] 屋ニ [illegible]

一 [illegible] 常野 [illegible]

[illegible] 間 [illegible] 大人 [illegible]

一 向川 [illegible]

みし雨て回く座通十折
御会ち嶋様宗ち新出来る住居
一此戸無縁之由今少様子見四ツ過セりつ所此
一條ち前ニ出松樽入り候海道半続上面者哉ニ
ちゆりかゝり一條ち与ち所迄出候り直候ニ而臣民ニ先頭
岩石ニ而中程之所ニ乍ら入前ニ在之故一体十ケ上四五
ちり様ニ而乍ら前ニ一條ち与ち所迄山口住居ち直候
手出ニ乍ら此ち出越中取割之深堀上四五右
又ニ頃七八人先ニ之御中ゟ候迄流之思召ニ而七十人
兵ちかニ在ち見ち中諸ち引列を上出来候得ち薬合ち為
列とゟ難儀十丁（大坂口）御徒衆三兵高等其前通（銅鐙御代ち）出売
手強兵衆ニ旗ノ乍ら急ニ在ち又知兵兵ち居遣様
ニ右山口ニ直候出来ち出申ニ而中々ち苦ち越有り右
一度見近年此ち此ち深更ニ文一條ち御村ニ
近方ニ而年ニ付次先ニ付ち所先道也（出ニ）おゐて十五日
此ニ之前後跡ち候ち越中ニ置候ち出申ニ候申し也
十六日夫代江戸ゟ之注人々
一頃ち跡も武田合戦ニ付ち多く人数ニ付きち出張
おゐて伝ちち真ちち夜通り下ち山口中泊也
一先達上面者一條ニ而御役所ニ人数衆道ち
兼ち勢ちち下ち御出張ニ付ち中泊
大ち兵ちちちち中ち弐三ち九ち大将参州町大将陣中
先ち候ちちちちちち十六
一諸勢問候事ち白ちち一手ち御料陣中ニ居
八月十七日

一八　次第篤と承り候人ハ
活　旦那早追ニ而帰れ
○　して七里
一千　屋ニ而罷七ツ処
劔　双方常野高州ニ而
残　軍勢七ツ張有て
四十　之免し間敷哉
三　間屋にて大人馬
侭　差向中立ん
一向川　一の手にて　紀州家八方味方ん

一説ニ長岡夜
襲ニ而雅ヲ
失タル由ヲ諸
藩拜借ヲ願
出タル一條ニ而
下アリトモ云示
候事

一 中秋之朝廿日執政 鈴得 参政（鈴田 岩云）及岸太早追ニ而北陣営ニ赴ん由
去年中一意ニ従せる由兵を許され候を許せられ是迄本藩ニ
差まり官軍ニ従ひ官軍ニ語り来り候故ニ此行有りトソ示官軍ニ

一 十日 [illegible] 前ニ而也と云

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible] 候人之兵隊差候

一 五日 [illegible] 一方ニ而ニ而候

一 [illegible] 之ハ北陸府軍営

[illegible] 之 [illegible] 而ハ候

一 [illegible] 産之飯路ニ而也

西 水戸藩兵隊北越高田迄通行一條并国司泉紀等

一 八月八日晩宇敷元之至白川税早追ニ而探索ニ行途中人数ニ行逢ひ其次第篤と承り去人ハ江戸御総督より右之旦伺出人ヶ直ニ飯ノト松程而無之処白川十日夕又早追ニ而帰ル

○一 堪義大田ニ流宿取候故申候 ○森木一二三上州探索として出足

一 千吉八月朔日江戸出立川越より倉ヶ野より四日逗留同十日帰着御用部屋ニ而罷出処

増老方水戸兵隊一條種々御尋且心得示迄申上候様仰有之付申上候様子常野両州之内残賊共未だ滞り居候右官軍ニ諸所在陣仕高崎之辺同州而帰之官軍監察等有之内右之外委子細ニ通行仕候て子細有之候ハヽ若又如何敷候ハヽ只今ハ通行差免し間敷哉とも存ト道中筋ニ而候右兵隊も多人数ニ而候間官軍大人馬之儀差滞り相成候ハヽ唯今相済候処ニ御付候半相替候事ニ而候

一 白川九日夕高崎ニ而水戸人数止宿ニ而難此一所ニ而加賀藩止メ候ニ而 紀田実ハ高崎ニ而

（ハ宍戸勢ハ於りや）兼而承り候倉ヶ野駅彦根藩知興事ニ付在陣之頭ゟ右ニ尋行承り候処六人

も相違も無之外心配水戸隊長ゟ歎様ニ処御総督ゟ嚴命御印鑑所持候付而召子納之

之趣申答ニ其外役是承り候も之き之候ニ付申之下由

一同十三日斎藤新藏川口多喜人矢代宿ゟ行出勢多郡井沖ニて先鋒ニ処出合ニ矢代

沖之宿割ニ付度弥平宰用金荷宿ゟ給付文之處之者心利ニ外者金付ニ気付指若

事務出ハ、右荷宰擔出し弥平与川ゟ土廣ハ投込用金荷物ゟ何方ゟ遠く擔行定之

附添人之者ニ地理不案内ニ付充て討方ニ候中合其代り付添之もの者共柄方同心ニ承り候

之直申答ゟ桓且宿入口ゟ只今之書追中合然ル処北陸道総督府（植）上田（綜宗）年ゟ申入候ニ付是ハ聢と相成

斎藤ニ而も今少し処北越大総督宮ゟ御孫之外之心配ニ付罷越十分之所行届致候ニ而仰付候

様ニ而状ニ到着之旦斎藤ニ宿之者ニも申合候処相違之処全謀ニ而も無残所ニ付而飲然処一

堪ハ白刃ニ而嚇シ之通行ニ而鉛ニ候哉矢代ゟ引取ル全謀ニ而外上田之全ク人数（条徒合而之由ナリ）

ニ付一同氣ハ於中之者全謀ニ高田藩香西（又五）一太郎水戸藩其附属（加藤司馬）罷越水戸之某ち藤長山

口徳ニ進質ハ真ニを知らん為ち之備十三日一同矢代七ッ立行（一揚ル）坂木ニ而宇數飯ニ而逢依而

同宿ニ而合し宇數東京ニ候も水戸か嚴済ニ付美て以て逢之処違し落ニ而心配をして候ニ付有

之松代ゟ北越追達し扱ニ候而出達書御役者之通行子細ニ旨申答宇多ハ直ニ松代へ

船ん全謀其外坂木を出外迄山ニ茂井其上大的ハ藤馬ニ而来ル（是ハ夫ゟ上田小諸探索致し路）依之茂井ニ寓

ニ而来り返し室賀八太郎ニ而谷飯の用意セヲ付呉ゟ様頼ニ付茂井ニ来返ス全謀ハ中野係陣

屋ニ而寄猶一同宿ニ至り濁飯調ニ又茂井ハ上田ニ而荷行宿所ニ申渡満有ニ付呉人

様尚又頼ニ付又ハ茂井上田ヘ行追々矢参り候而一同上田宿所ヘ罷処其前ニハ水戸隊ハ已

ニ着し全謀ハ水戸隊長山口ニ逢度合（大総督府ニて今ニ合ふ云）申遣ス仍山口全謀ニ旅宿ヘ来ル

供三十人程士分らしき者紫指桃灯皆鉄砲手鎗ニ而て携十人附ス其宿所ヘ入（狭ニ其宿所一盃ニなる）

十人程ハ宿所ニ而ら三ヶ四人も山口ヘ附添次之間ニ扣居全謀もる對面ス續而一同其席

しむル参謀附属之水戸ノ某山口ト面会久々ニテ對面を述ル（山口ハ二三番低キ意ニ對シ）参謀ハ山口ニ申述ル

頃ハ東京鎮臺府ニ何之訳 御裁シ参之程更北越を北陸督府之御指揮官軍勉

励追討賊徒足を止ル処更ニ参之依之外藩ゟ兵来り之及遠ニ引去候ハ大総督宮今之旨

之旨也併申述ル然ル山口答之之来ル処水戸殿之頭取朝比奈弥太郎ゟ壱人二十外之者

其越路ニ潜居致相分り候當二月中追捕之為其頼ミ候処御称国参也（水戸御不審有之江戸屋敷ゟ引揚有之候ニ付ゟ之国参也）

然ル朝比奈弥太郎ハ雲浦新潟辺ニ潜居致尚又聴ク相分り申候

尚又先般再願衛ゟ下知有之是迄也向之儀又聴差不裁ニ付是非不止何分ニ次近

隠れ以て御総督府之御下知ニ而何方迄之攻口ニ有ル可哉畏是迄参り一歩も

近寄候ゟ退キ之ト為迷惑何卒御執成被頼度与祈入ニ申述 鎮臺府之御

印鑑ヲ差出只管之儀ニ付参謀ニも山口ニ申出宴下体之趣追々免し角も御

執成可致旨ニ而應接相済依而頭盤をも七ツ過之ニ知る山口叱ニ先年武田耕

雲斎一件後右田類家族ニ仕置朝比奈外之人指揮仕法外至極之仕置仕此度参り候由

勝之内身寄之者多く有之ニ付恨ヲ含居候参謀ハ此時脇ニ居候所ニ而然ル処右田露香

西一太郎参謀ニ申述下ち裁之宮御方ニ而始御配慮之儀ニ付此方所ニ歩ゟ一見候

何有之方ニ而存ゟ不申むく候参謀ナルと申出ず程ニ而不見ト其内暫参言 座を立 参謀

二階之間ニ上り香西を残し 二階ニ而之次第ニ香西之発言直ニ清しの儀も有之候由而右之

外一同二階ニ呼

而又山口ニ對し且ち香西を遣しめれし参謀之毒ニ付扣居候ゟ一同ニ而申合呉ゟ候参謀申候ニ付

参謀ハ香西之席入替り（蒔存発言）先程ゟ申置之義東之鎮臺府之御印鑑所持又

御進展之趣ニ而又之御達も有之参謀ニも承知ニ致参候以定規定理相称ト云ハ

御発言之趣ニも不及哉参謀ニも会参ニ而も承知ニ致可哉ニ付甚無左候

可得候香西承知不致ニ付一同ニ而申諭ヲ得共免角之儀申述候ニ付暫及篤与而勘

弁致候処香西彭近ゟ申分ニ付水戸勢不止して拙者早追ニ而御総督ゟ申立之處ニ付

ハヽ荒井宿辺ニ而敵ニ逢可申与存候右ニ而当年五十四歳之由論ニ而内々之者ニ而候得共
日枝者早追ニ而今ニ宿々ニ危機ニ而具ニ申上候ハ是迄之義致候得共私ニ条謀決ニ到候ハ兼而と察
し其席ニ出是迄之次第ハ若何程不存候得共篤与勘弁致シ通行者致不苦而可被成候ハ是ニ而
香西七ト名（香西ト云ハ水戸ニ而留守居役相勤申候至而多会之条次ニ言葉廿程之人物ニ而有之人ニ候）
当所ニ而三ヶ所篝火を焚夜中不絶五六人宛鉄炮を持而中裏迄巡廻致し申候

一 上田宿ニ而水戸士三人外ニ足軽ニ農兵ニ而又ハ走役之者ニ而十人上信越ニ而高用ニ而参り候而参り候而夫ゟ川中島古戦場又ハ妻女山ニ而昨夜しも辺掛ニ而合申上而右三人幸右衛門之者安兵衛ニ而矢代ゟ西ニ而雨宮ゟ妻女山ニ登り口を聞取して山ニ登り罕ハ塚ニ而巡見之内程近ニ鉄砲声有之又頻ニ発ス右四人驚而四方を見廻し候処テントを張有之而勝ル大鉄も有之旁以狼狽道も無き所を一寸之延ニ下り岩野ヘ下り候処村方之者驚（を其来山ハ飛ハ四人ニ候段）候段ハ一左右ニ而此旨を（松代矢代）ニ訴ヘ（大公儀御預り夜ニ御通行有ニ而八月当節ハ十七日夕迄当番之外ニ候）

一 水戸兵矢代ゟ志賀ニ至る篝火を焚き夜ニ入篝火巡邏致し上田之道ヲ廻リ候而役人山口ゟ要害ニ而路之武田金三郎始五百人余八月三日水戸七百人ヲ見テ得共帰三百迄ニ而探申し候

一 妻女山ニ而遠眼鏡を以松代地理を視る者水戸兵士ニ而四人有之漸く心得所置ニ而其上ニ而隊長ニ而参り而寄手条候ニ而此処条候之事を新ニ相済候多ク候表向キ相立ニ而ハ四人只今相済候ニ付四鄙兵有之而内松代者ハ山口ゟ固メ候ニ而一向ニ越候ニ付得其意置無処条候公表向ニ而決ニ参候得ニ而能申哉ト銃ヲ持役ヲ以極ニ候ニ付得共四方越ニ銃も有之内ニ而参り夜篝すり松代四方ニ而追ノ銃眼候狼藉致候ニ而殊ニ而誤ヲ謂越ト参条候ニ而之人而

一 水戸ノ兵士ニ而神信義形陣営（白熊赤熊在之ニ而有之）陣羽織背ニ○京左肩ニ☾ヲ付何ニ而一段割当勢之其二色之者銃ヲ携半ニ位鈴を着ケ相印ニ而包ミ仕候ニ而新兵衛ニ至る迄也さし

一 袖章ニ ○ □ 十 一印ヲ捺ス

補 此日町村ニ帰く岩野ノ者許ニ而有り而地ヲ来り而今ヲ水戸ハ凡そ四人上口三三ノ船ニ而薬師堂ヘ

本藩七連
銃見贈故

登りける中内ゟ候處祝ひに云塲上へ四人出タリ依て銃口を向て一発打て見しと云
者もありしか秘異之事ハ制止之候諸人遠ク二丁ほと中ゟ峯へ登ぐらんとさへ好
ころえ云ましうしか其の候行ける処に其ニ暮って光るにやらしに云ふ守被為る
成り行なり夜は藪の所ゟ光るも由哉は近日之所示置申候て置候也
候鉾ノ子故アラレの桜花へも所出夜々入砲声聞え候事を詞役及出案申候赤

血記喜也
梵賊報君恩
有年再拝
きさらき[illegible]の月

㊅

山口徳之進様　（御手紙ニテ）　桂田宗平

一　其口上候夜前と久しく云ふ御趣大慶に存候今日ハ天気哉よろ変化ニ敵近の進軍
之義日出度存候扨去ル参道路之様を承り候処之模様一円程度下ゟ子あり候は
山之陣羽織之三日月之紋之勢字の志らし旗を着し四人程さし添て案内を立
出直様たち戻り山間へ入りを愚夫ともえ見ゆと甲狼狽して候と存よりし御座候若
御塵下て士非常を御巡見遊ハれ候の歩行成るを見て戸外ゟ出て其虫氷之笑ふの
談の如く候扨申之ハ無御座候やと存候扨御待御申一寸御尋申上候処御様子委しく
承り一統大ニ安心仕候故御知らせ申上候仕る事私共よりも申上候

十四日

山口徳之進様　まいる　桂田宗平

樋田宗平様　御復　山口徳之進

登りハ[illegible]内[illegible]路ニ塩上へ四人出タリ[illegible]銃口を向て一発打て見しかハ[illegible]

者もありし[illegible]ハ制止[illegible]人[illegible]中[illegible]

一ツも[illegible]行[illegible]又ハ[illegible]て[illegible]

あり[illegible]夜ハ[illegible]一[illegible]近日ニ[illegible]

候[illegible]故[illegible]の桜ハ[illegible]夜ハ入砲声[illegible]役[illegible]

隊ハ七[illegible]

李花落七連発短銃見贈故有此作

十五 軍務御用掛植田総（宗）平詩歌

戊辰之秋八月十四日宿信州矢代驛壁上題此詩を盡記喜也

賜砲賞徴勲　何廷言奉持　臨戰日驚賊　報君恩

宗年再拜

一 ゆかる水も帰らぬ[illegible]見て心も勇[illegible]の月

[illegible]御返リ[illegible]御[illegible]

植田宗年

宗年十六日晩上田ニ而山口を発し[illegible]入[illegible]十六人

[illegible]僕[illegible]

直様[illegible]列[illegible]

[illegible]十六日[illegible]皆[illegible]を並

[illegible]川[illegible]刀[illegible]候也

一 [illegible]日の丸一[illegible]列[illegible]の

[illegible]文字[illegible]

一 大流八ツ事を[illegible]

[illegible]

一 [illegible]役 ○ ☾ 二ツ[illegible]月[illegible]

[illegible]二ツ[illegible]

[illegible]

[illegible]比驛近の進軍

一[illegible]下[illegible]

[illegible]経[illegible]

[illegible]

がメいて夏虫氷ニ笑ふの

[illegible]

[illegible]

植田宗年拝

山口徳之進様まで

植田宗年様　平復　山口徳之進

右處兼而ハ久シク而風雲急ニ移り候得者然ル處一同決議ニ而方ゟ當リ小山ニ三日

月之頃ハ勢之実を得テ陣羽織を着候者四人程廿歳ゟ三十七才程之者山

聞ニ及ヒ候所追々進者之内尋之趣委細承知候ニ付右ハ全く禁裏砲隊之士ニ而候

渉候ニ付右之一番之別段巡邏致候而詮ゟ之ハ余之者ハ定而言死ニ相成候者ニ付

頼ミ之候様自ら談判致シ候て自然ハ見死ヒ其事ニ且ツハ口論之一語ニ而致感

ヲ致候様ニ付右様之段申置候為篝火を焼候兵を出候ニ付右方

以之者領ノ帰リ候ニ付[illegible]合ニ而宿中半ゟ[illegible]

十四日夜

植田宗兵衛殿　右陣之途

㊆東京鎮府御達

松代藩

水戸脱藩之奸徒越後表ニ屯集右ゟ討伐致出兵度段水戸中納言ヨリ願書相聞届候ニ付此段
申達候以上

八月十一日

大総督府

下謀参

水戸侯願書写

先般依　御沙汰之厳罰ニ付奸臣市川三左衛門等五百人余党与相結水戸表脱走此程越後路ニ屯集罷在候趣相聞候ニ付至急之人数指向致追討候様ハ勿論ニ候得共追而奉申上候通軍艦ニ而手当更ニ無之甚以差支候所両野信州打廻り多分之兵隊陸行候而ハ百里有余道程炎暑之節自然日時茂相立応機之実効難計甚以心配仕候依而再応奉歎願候段恐入候得共　朝廷海軍御船艦此砌御必用之御備難相済候ハヽ是ニ而

在候て列藩之内堅牢之船艦両三艘　御沙汰を以て拝借相済候儀も相叶ひ候ハヽ哉右私ニ候

願出候段何共恐懼之至ニ候得共幸ニ御沙汰を蒙り候ハヽ臣一所発力致連綿孫更　王政

御一新之際一席之御奉公粉骨相勤度候誠ニ以先臣源烈年来苦心致候尊　王之

素意ニも相叶ひ可申候万一脱奸兵賊軍ニ相応し官軍ニ抗敵致候様之儀有之候ハヽ

尊ニ不相済次第ニ深く痛恐懼候ニ付此段ニも敢而奉願出候間前顕之情態御憐察之

上何卒御至情之御詮議を以下罷下候様奉至願候誠恐頓首

二月

水戸中納言

一 大 州兵通行聞記

一 此兵ハ小銃ヲ打テ人数ノ進退ヲ號令セリ上田ノ藩ノ黒白兵隊ノ色名

行ノ形ハ北軍艦ノ軍ハ妙ヲ以テ進ミテ来ル其時モ銃ヲ撃テ一二声ニテ諸兵歩ヲ

止メ道ノ傍ニ避ケ小軍ホシ退避シ又複銃ヲ以テ進歩セリ此日ノ行

軍毎ニ行列ヲ正シ縦歩スルコトナシ

一 先代次第ノ時諸兵皆旗章ヲ入込ミ山口本陣ヲ聞キ床机ニ備リ

従兵左右ニ護衛セシム時ニ諸藩ノ如ク営来リテ喝采銃ヲ備ヘ鼓ヲ撃テ後チ

軍監役ヲ備ヘ諸藩ノ奉ル処ヲ陳ブル由時ニ山口本陣ヘ又従兵ノ指図ニ及ヘル

皇朝第一ノ官文ナリ近来之ニ倣ヒ諸兵隊毎紀律整正役ニ尊敬ノ

ハ比アルコトナシト云

一 此隊ハ篝火ヲ焚キ夜巡リヲ為スト云巳ニ毎ヤ其ノ法ノ如シト云

一水藩兵後陣武田鉄三郎一隊二百人馬上六騎八月廿三日矢代宿ニテ
北下セリ上田ニテハ先様ニセヌ由ヲ落テハ出張ハセ[illegible]由

一水兵共ガ陣羽織ヲ着シ侍ハ[illegible]武田ハ直垂ヲ着シ[illegible]ヲ着シタル由ニテ
丹伊ニ在ル所ニテ赤陣羽織ヲ着タルトカニ而天ナリシニ武田ハ白熊ノ旗ヲ着ル
北西ニ於テ陣中ニ新義ナル人ノ兵ヲ陽ニ於テ出ス由

一後軍北越ニ於ケル浮浪ノ無ヲ[illegible]此文鏡様六文錢隊ニテ[illegible]様
ニ捏ヘ取リ錠[illegible]サリシト云

戊辰中秋録之

昨年ニ至リ中ニ来リ右浪人共ハ浅倉ニ面会ハ中[illegible]
同人ハ右様ニ一[illegible]旗本ノ者ニ頼ミ其[illegible]
[illegible]

ガラス使用

又其弟子に今宮たと云ふ者遊行ハ法に取去して其首召たと分せしよりて海にて此時院に大家居は其由膳集の前三其家ニ戸毎々汀左衛毎其興を其大ク拂ハ所持其云其事を其云人夫長等ハ然之時ニ右之月日ニ其人にも甲ノ二五月二日ニ二十日今年ハ家中より一出家ニ府を其以後生ニ名物にて我身右金銀を其徒ニ付我家ニ上り下従者ハ本法経其方ハ三十日也和尚ニ元来之本去其の門主近年ハ三其ニ二十日其比江府表ニ其家康二日ニやさる其内も送てとなき三十三日其方其内ニ其事従家ニ同ニて寺一ニ去年ハ其後私ハ其時ニ而相右従ニ其事ハ其身ハ其入寂せ其ニ依て其役混雑ハ其事ハ其後ハ私其三十日和尚名を遂

又其内に一両遣し候中に迎其上ニ奥方へ遣し金子壱歩金上人初て庭迄参り中ハ右之通書を奥方へ懸る也其後御弟子ニても候処其後十月ニは迄右之通り候又従類の有ハ去る比より宗門二派之内鎌倉ニ而私方ニ其後ハ北条殿座頭にて有り江府表へ参り候事にて押而参詣に去年ハ其様の難有為に大病を発し候てハ其内直に死遂に同月三日相果候由其子孫ニ三十遂に候ニ死去三月に上人二月初ニ其弟子ニ入寂之後其云是非其子ハ入寂の上ハ母方の親類ニ府中ニ而御屋敷其外又其上ハ上人ニ而御座候て居り候一其家年其世話候て宿所申付候処其品上京ニ其類ニ候て其外四ツ迄ニ上京ニて候

去未年中御陣被仰出候も無之公方[illegible]海道安房守

此度之儀日根野[illegible]乱方之内ニ而も三月廿日[illegible]

上杉中務方へ[illegible]中務安房守殿[illegible]

日根野[illegible]早打[illegible]貢[illegible]

[illegible]候[illegible]

上杉七[illegible]三[illegible]

[illegible]上杉[illegible]日傳[illegible]

廣[illegible]上杉[illegible]日傳[illegible]

[illegible]日傳[illegible]

[illegible]上杉[illegible]申候[illegible]

[illegible]又[illegible]

[illegible]

ガラス使用

[illegible]

[illegible]中[illegible]上[illegible]

[illegible]日傳[illegible]

[illegible]古織[illegible]

[illegible]

[illegible]一[illegible]

[illegible]

[illegible]上杉[illegible]

[illegible]上杉[illegible]

[illegible]

[illegible]

右人ニ念[illegible]者ニ而ハ千[illegible]候様ニ候而ハ神前ニ参

ことの外難儀一夜御座候而神前ニ而御祈祷

[illegible]ニ相済候而[illegible]下[illegible]ニ[illegible]世上[illegible]

神前ニ而[illegible]一夜[illegible]

[illegible]精進[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]何年[illegible]

[illegible]

[illegible]上[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]何[illegible]

八月十日

田中敬孝

高野[illegible]兄
玉机下

南村ハ武ニ茂来ル毒無比[illegible]ニ至テ必ス将来
其藩ニ而モ南州ニ於テ[illegible]大命ニ應シ候也
甚[illegible]在陣中十月ニ於テ北越ニ於テ戦死
及ヒ候其藩之[illegible]武威ニ日後之表顕致候
今年ニ[illegible]候而己ニ而已

---

⑳ 在越山本昇（八番戦士 在亀崎）所送図説

七月廿五日暁八ツ時賊兵大黒筒場ノ臺場ヲ破リ入テ急ニ長岡ヲ襲フ初メ長岡城没落ノ時逃残リタル藩中ノ婦女子等市中ニ潜居テ賊ニ通シ四方ニ火ヲ放チ其ヲ合図ニ八方ヨリ撃入 官軍一時敗軍トナリ長岡城再ヒ賊手ニ陥リトス諸方臺場ニ嬰ル者苦戦ス廿七日迄テ砲声不止ヿ亀崎臺場ハ我八番戦士ト吉村一小隊ヲ以テ守レリ賊兵来リ攻撃シ争戦勝負ヲ争ヒ軍監西山良輔戦死シ銃手一人負傷ス此時長州一小隊来リ援ケ共ニ防戦廿七日ニ至ル賊勢益強暴衆寡不敵ヲ計リ一先引揚ントスルニ長岡已ニ賊地ト成リ道路不通故ニ多人余段後山ニ上ル此時八石沖之此山ニ高田大垣ノ守臺場有リシニ今朝既ニ敗走シテ賊兩黒ニ入替リ我力虚ヲ襲ク追撃シテ頗侵ク敵軍因我因退キ夫ヨリ間道ヲ経山ヲ越シ半蔵金ニ到リ人数ヲ纏メ廿八日山路凡十里余ヲ経テ小千谷ニ入ル

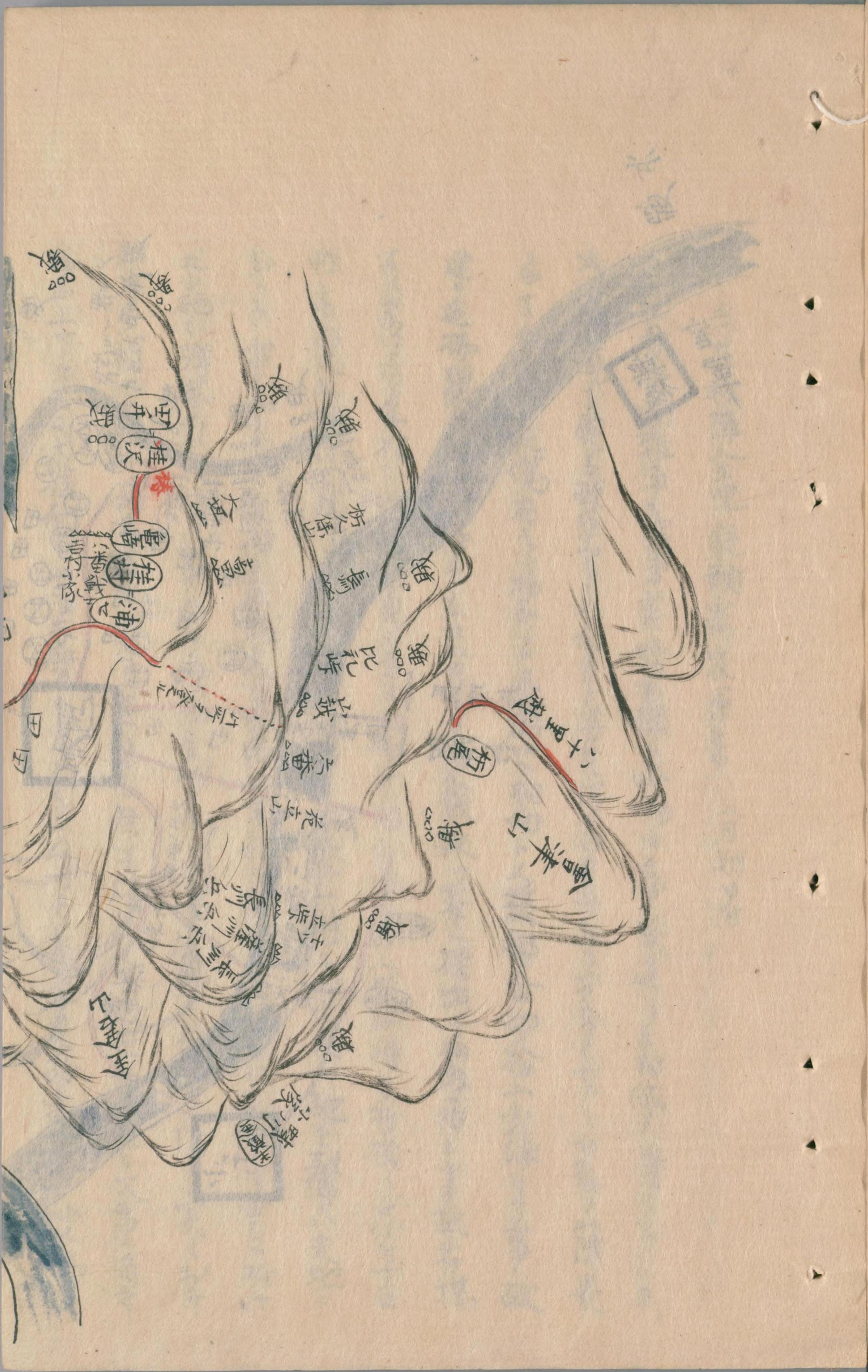
一 七月廿八日夜（小千谷ニ到着ス翌夜也）吉村半小隊六番八番戦士砂伏ニ出張 廿九日未明砂伏ヲ渡リテ

薩州二小隊長州三小隊我吉村半小隊六番戦士ハ坂口（宗太郎）竹内（直太郎）島津（丹織）仙道（良八郎）川崎（源吾）坂野（柔次郎）粂名（友太郎）小出 八人八番戦士星野（誠一郎）小松（秋三郎）秋里（初平）長谷川（徳太郎）久保（藤四郎）小林 成澤（新弥）山本（昇） 八人二組合十六人進軍四五人軍監川口尺文吾之部ニ六小隊余ノ兵ニテ進軍賊六日市ニ出テ迎戦フ官軍衆モ奮励烈戦賊忽チ敗走ス六日市ヨリ長岡迄二里余其間ニ於テ誅千馬ニ而戦死ス進テ長岡ニ入ル時ハ遁之所ニテ放火シ残賊ヲ駆撃ス此時火煙ノ起ヲ見テ川西ヨリ諸軍手入長岡城復シ兼取リ即日先鋒ハ見附ヘ進軍セリ

右長岡攻之節ハ一同必死ヲ覚悟シテ撃入タ故殊ニ強ク烈戦ニ及ヒト

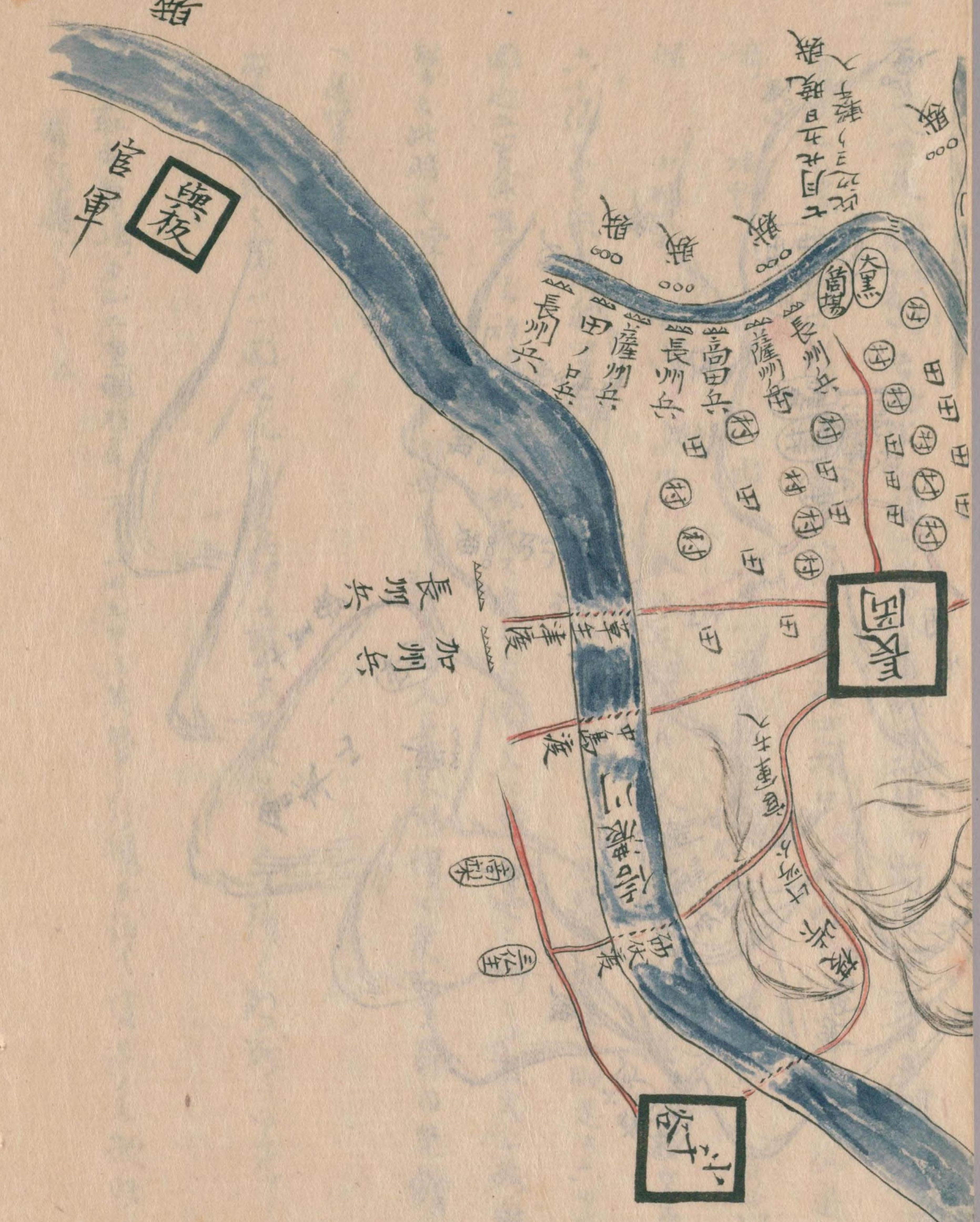
已上

或云亀崎ヨリ山ニ重藏杉尾ト云ヘ一里程アリ其勢ヲ引揚ヲ待テ後退スル故此一隊甚危ナリシト云



㈡在越陣金児鋭頭寄家郎書　八月朔日付

去月廿五日長岡戦争之次第兼而御承知被下候所昨日まて取返し相成大慶ニ存候然ル処
御家死傷も能々致不申候不相分候得共何れ多ク有之一方ならぬ事と存候ニ薩長
之ニ全御ニ死傷有之候様子ニ長岡口ニ相向ニ人数都合四拾二小隊と申事故
速ニ追拂相成申候廿四日事も廿五日より御人数鋭ケ峯ニ操出し相成居候事故右場
所ハ参り居不申候ハ官軍妙見之方ニ相向申候固ヨリ山手の人数一時ニ打拂ひ候所十日
町迄出火致候而長岡残り候市中城焼失致し候土蔵等一時ニ出火大小砲之聲ハ天地ニ
響き候雷之如く其近村も不残火と相成四里程之間唯真黒ニ相成り候中ニ折々
大小砲之弾薬等ヘ火移り候や向之煙りまて吹上ケ雷之如く之音ニて誠ニ実ニ恐
ろしき程之事ニ候将又下番三条ニ逢之候ニ廿ケ半頃ニ丑過迄金程之火事有之
様子上下とも大勝利と一同大慶之思ひをなし候夜ニ入見候所不残焼拂


賊兵
與板
官軍
七月廿五日暁賊
此辺ヨリ撃入
賊
賊
賊
賊
大黒
富島
長州兵
薩州兵
高田兵
長州兵
薩州兵
田ノ口兵
村
田
長岡
草生津渡
中島渡
信濃川
長州兵
加州兵
官軍打入
榎峠

是も賊之致ト存候得共見附宿ニ而何れも上り候ハヽ宿ニて乞食の類ニ多く今朝 八月朔
敵ハ峯ケ人数引揚候本陣ケ達し有之矢張澤田へ引揚候右先日迄持之法師塚
之方列数打合ニ相成候處法師塚へ登り候所中ニも相勢引候多人数ニ而一手
日ゟ八十人程多く打合日之浦村賊之陣所ニ而放火焼払何連之所や不相分候所両三人
残し黒澤田村へ引取候得共法師塚と相對し木之目峠の臺場引取候扨其夜之
田新兵衛ト申者見知居候人も不存候ニ付一同木之目峠迄参り候處賊引取節ニ而近村へ不残
放火を致し然者何れも大火ニ而此度ハ賊共近辺ヲ不残焼払三日前ゟ此辺ニ而此度放火
致し多分ハ加茂迄ハ兵集致し巻と風聞有之候へ共遠方之事ニ付候所ニ而出張ニ相成
多分ハ近辺ニ而此辺へ出張致し居今日ハ入込ニ而進撃を致し此雲峠口　御家人数ニ而
法師塚ニ而穂兵藤巻村へ繰込半隊ハ右備ニ而長兵衛等半隊ハ藤巻村ニ陣取
先月今日法師塚を御家ニ而出張夫ゟ朔日ゟ廿日迄ハ七ツ時ゟ大雨ニ而今日
も法師塚ニ而長兵衛天迷惑之事ト何れも此度悪敷人数一同ニ進撃ニ相成候不日之事と存
候ト夫ゟ新潟辺迄近々進軍と存候至而御納り申候様之奉存候猶又追而可申上
候先ハ右之事而巳申上候以上

八月朔日　藤巻村ニ而

友吉郎印

四郎様

㊁同上八月七日書翰

皆様御揃此八長く滞陣三条ニ罷在候處不意ニ御座候處急ニ見附辺まで操
込候様見附本陣之事図を以て被仰付候ニ付今朝出発致し候處雨天ニ而
且又大水ニ而三条之渡しの処舟を多く不用舟渡ニ而流し列ニ而通
泥之渡り夜の五ツ時比見附へ着両日も滞陣と申候處不意ニ繰込
達有之明早朝杉尾へ繰込候様右ニ付今朝見附出発杉尾へ着此辺迄

候所ニ而其所此辺ニ而者二千四五百程八十四五程之道を通り候処人数を取て押
又豊後ニ而も陣を取候ニ付是迄と違ひ山中ニ而も不都合ニ而是迄ハ海岸斗ニ而者
戦地之事故何之候も能候ほとの休息ニ而も出来兼候ニ付休息も無之ニ而も不都合ニ
候ニ付此度ハ薩長加州人数ニ而前中ニ而何ニも候口ニ入ニ候を抱合ニ而高田ヘ押込
ニ而候御家中ハ高戦士丈ニ而出張候小隊富山一小隊余須坂一小隊飯山一小隊余
ニ而遠二小隊ニ而右様ニ而余程陣ニ而ハ八ツ又之何ニ而も之計りニ而ホット当惑致候
進撃之節者近田手致細不足
着ニ致候ニ付一日ニ而夜天気毎日降り困入申候
入ニ而義陣儀被下候以上

八月七日　杉原陣営　罗中

友申

尚々伊下近所一同申候

㊂在越矢野倉某 謙兵 書抄　八月七日

当ニ新発田ニ官軍ニ相廻し其ニ先鋒として以上
前
別暑下當月朔日ニ候ハヽ海路相成ト然ニ先般中越ト通リ四日屋後与板
板新町大坂屋勘七方ニ出立下り私ニ而大河津ニ而中来迄著丈ニ陸通地蔵堂ニ而
来ニ而左京殿ニ而本陣ニ而罷出丈ニ同和中軍会議所ニ而薩州西徳次郎長州
松山荘一郎と申人治安与板会議所諸軍監　宮様法荒尾駿河
殿ニ而傳之於頼申付同和ニ而丈ニ申付宿早着過之一盃以て丈ニ同和小
荷駄方ニ而御暇上日ニ而後急ニ早馬ニ而三条高志小路大和屋佐七方宿陣
ニ而先ニ今日ニ而追々名ニ申候之　下略

八月七日

別紙

此ハ人数様子ニ而多配大凡左之通

河口左文太

小幡内膳

国領兵部 近藤民 金弥 弥惣 小崎貫 兵国弘 兵部為 長谷川直済

急迫左 吉弟一庵 松山良積 寺内又御番衆 ホ三条見附口

稲津大之丞 （同組頭）

今日村松ヘ繰込

金児友五郎 （組之頭）

田沢北田并 （支配頭）

加茂江 人質ニ付 船ヲ乗テ

海野寛蔵 （同組）

小幡勝市丞 （同組）

荻原七郎次 （同組頭）

加茂口村松ヘ繰込

加茂ニ残ル

金児忠兵衛 （大砲組頭）

村松ヘ繰込

柘植虎四郎 （組之頭）

吉村左織 （組子頭）

村松ヘ繰込

牧野大蔵 （組頭）

士族ノ領ニ参り候との口ハ今七日昼八ツ

隊ノ申刻も出陣之筈ナカ

（村松近寺文領）柳澤就之

ここ 新十郎

鹿峠

蟻川賢之助 （組頭）

森

杏町

（山縣ニ代り）

小宮山之丞 （組頭）

此者人何是川東之内多分表ニ引取 日只今夕方付退柳合了殊書之通

此余モ様々承候得共確ト不仕候ニ付略ス

八月十八日

八月廿日

二回　風聞

八月十八日夕状ニ申来候（会津ノ方ハ[illegible]ト申[illegible]タル由）　隊長ハ両三條ニ在営之

村上侯ハ退城何方ヘ欤奔ラレ残リ留リタル士卒ハ官軍ニ降参タル由

本藩様ニモ三條ヨリ践ク事ナルヘシ此地ハ越国中ニテ要城之所ナレハ之

半藩金之人数ハ村上公半里計退キ在ル四郎ニ渡峠ノ所ニ而

一　彦根勢三百十五人八月十五日青柳駅止宿ニ先触有之北行ハ北国筋不容易

通リ之由御手ニ付了方之人馬支ヘ遅延シ一宿シ四月中[illegible]ニ御座候人足二百

人余ヨリ四百人余也[illegible]之是ハ中山勢北下ヨリ当ニ付先触ニ而[illegible]之

右之通リ御用[illegible]ニ付[illegible]之二日滞留仕候事ト於云

一　近頃尾州勢交代トシテ三百人程罷下リ候由其後ハ往来モ絶候由上ヨリ申候也

一　先頃薩州勢江戸ヨリ帰リ又其後北越ニ赴トテ三日ニ当所ヨリ通行セシ十二人

之先ニ而四百人余リ通行セシ処後レタル者モ[illegible]之礼ヲ受取リ村

役人ヨリ[illegible]追廻サレ大騒動致シ甚難渋セシトナン

一　大国ニ而士分之人長岡夜戦ニ而打死ニ及候処其者一人ハ十五

六才ニテ手負ニテ人ニ負ハレ逃延ヒ候処其母ハ外ニ而

生捕レ候テ逃行キ夫ヨリ[illegible]ニテ右之者モ捕ヘ[illegible]四條大国人ニ依

リ[illegible]

一　米沢ノ兵隊国行ニ而[illegible]ヲ出男兵迄出張候ニ付其母ヲ[illegible]

敬ニ及ヒ或ハ生捕出シ[illegible]成行候由

一　其外大国[illegible]ハ同門ヲ建メ[illegible]テ[illegible]

兵ニ出[illegible]大ニ難渋セシ

一之ハ[illegible]

代リ来リ[illegible]

一 新発田在留人数三百人許也去ル八月十九日村松泊先ニ而割元川縁ニ至リ而
分通北行やんニ付

㊂㊄ 武敏 八月九日書同念一日達

先月廿八日付之御状去八日相達仕候 然ハ私事其已来御異事無御座候清光侍
候間必御案事下被下度奉希候 扨去月廿五日暁八ツ時分衆賊長岡へ襲来候ニ及
軍引揚ケ候儀ニ事人々文義細中上下とも不残定而御承知と奉存候御家ニも存候
私共ハ雲崎口ニ罷在候而富而ニ追而長岡口ニ実績無之を承リ切歯之余リ密ニ
議論も仕候事御座候へ共全体ニ於ハ違ひ殊ニ其位ニ不在候得者胸中ニ在候而歎
ケ敷事ニ御座候得共実ニ驚入可申事ニ候然ル処皆自業自得之為
ニ而致シ候官軍素ゟ殊ニ事ニ候へハ可痛ニ至且其後之誠心を厳ニ仕候而も分
有之候得共右様之事故所ゟも彼是不正ニ七雲崎口 御家ニ御人数も僅ニ
又一小隊ニ候へ共各藩ノ右ニ出而旗等ヲ唱ら候而も第一ノ務ニ而皆事ニ
忠を尽し 御家之 御名ヲ汚し候事 決而不本意ニ候得とも後ニ何之
名

計略ヲ辞シ戦隊ヲ引テ内ニハ不行届も照覧アラハ申訳有様ニ兄弟ニ相病
長岡ニ突出ニ当キ時ニ忙然タル心地仕ト存シ候後ハ各隊奮激ヲ生シ身命ヲ
抛チ勇戦ニ賞罰ヲ被シタル今日ニ傳ヘ至テ北越国一円ニ平定之御威光上
ハ猶々情ノ年ハ生スル事ヲ戒メテ断不致様心懸ケ外々ニ存申候私共ハ幸ん
二日嶋崎ヘ追ニ即日弥彦ヘ追発三日吉田四日営陣五日三条ヘ六日見附、
七日栃尾ヘ相追八日九日営陣明十日八十里越押トシテ吉ヶ平ヘ出張ス
小宮山隊ヘ加リ金沢隊モ二小隊右ヘ又云両戦士相加リトヲ申此ニ押都合九ニ
十五小隊ヲ五小隊ニテ吉ヶ原ヘ交番ニ出張致シ居タリ由右ニ付彼是議論紛紜
有之諸口進軍ニ相細ハ説ニ照覧スル手威アラハ見ヘ待ト
一 御家ニ於テ兼而シ来リ出迎来ニテ其迄者ニ申付テ長岡ヘ捕ヘ人来
照覧千家皆之者ヲ持チ町家ノ者ニ助ケラレ中野郎ハ斬首ニ而威ヲ示ニ之

九六カ

終ニ手ニ入 御家ノ恨ヲ雪キ候事モ出来候得共捕ニ不相成候事共残念ニ
松代藩長谷捕ヘ候者ヲ仰付ハ我等ハ生捕ヘ不申承ハ右ニ付天幸ニ存候
先ツ不取敢右等之条奉申上候此ノ如ニ御座候
八月九日　　三郎右衛門

㊅酉申八月十三日北越吉原営所発書

初長岡落城後當地之賊共不残退散後長岡時六十里越八十里越津川新潟共ニ押ヘ候
朔日當二日澤田ヲ立テ弥彦ヘ泊シ三日吉田ヘ着五日吉田ヲ立テ三條ヘ参リ六日見附ニ
泊シ七日栃尾ヘ参リ十日栃尾ヲ立テ八十里越之中吉ヶ平ヘ着 此吉ヶ平ヘハ金沢細山
越組五番戦士ヲ以テ鹿峠ヘ越川組其余共不残加茂村松ニ在之由ニ付本陣共三條ニ由ヲ以
座候處角隅地之事故田舎ハ生不便ニ之 此吉ヶ平ハ東山手之山中ニテ殊ニ外
寒地ニ而候ニテ テル ゾホン メリヤス筒袖服ヲ以候得ハ手足迄冷ヘ申候ト

一

（八月十三日）一　昨日仁和寺宮様も見附御登ニ三條迄御進ミ相成ト申口居ト云〻

八月十三日夜四ツ時認午吉ケ平　西村申太二郎

㉗諸軍分配三道攻口（岸太氏所持傚云）

○八十里越口出張（吉ケ平）

一　加州一小隊（内半隊八月十三日引上ル）（午十人ト）　臼砲二門　施條砲一門

一　松代二小隊（金丈　小宮山）　一　須坂一小隊　一　松本壱小隊（外津谷）

（隊ト有ル所ニハ於半下ト信セヨ隊下ト書ス何レ是ナルカ知ラス猶可尋ヿ）

外蒲谷　大江新田　笠堀

一　上田一小隊（大江新田）　一　肥州（若）一小隊（笠堀）　一　高田一小隊（大谷）

大谷　森町　小長澤

一　加州（沫田要藩英武隊）（式）一隊（森町）　一　高嶋一小隊（小長沢）　一　飯山一小隊

〃　土州隊

松尾町詰

一　加州春日一小隊　一　松本一小隊　一　尾州一小隊

一　上田一小隊　一　富山一小隊

〆五小隊（合五小隊）

○六十里越口押

宍澤口

一　尾州五味一小隊　一　飯山（田）一小隊

芋鞘口

一　高崎一小隊　一　尾州三寸砲壱門

（須）鎌原口中押　並柳

一　尾州（集）景義隊一小隊　一　尾州山石隊

一（一）　龍野（高遠）小一隊（小出島）（壱小隊）

石峠

一岩村田一小隊　諸川口

隊長菊地之甚吉　三之

薩州　長州　佐土原　長府

御親兵　敦賀　御家　高田

松本一小隊　新発田　土州　村松

以上

与板　田戸口　飯田　大垣　六川　高遠　小信地何方乎

三根山　糸魚川　なの　山形同勢半来や

㉘北越在陣金児砲長與富永　新平書写　戊辰八月十三四日

秋冷之節と相成両天候別ニ不順處々も多く扨山手之ハ方即死負手も追々多相成可申候諸藩ニ引比ヘ申候而ハ弥手少く全武靖神君八幡太神之御守護を奉蒙ト存候人数去歩も引取候而ハ慈尾高ニ評いつと同藩今度裁断を格別之精兵を出し候ニ付長岡ニ評定致宿陣ニ札見ニ日ニ一番精選組二番手ニ従えて世間ニ對し恥ヶ敷候右精選ニ候ハ残兵ハ如何哉先般之對陣之数十日之覚ル居夜中之不案内之地も覚ル得候を専ら出居三四ヶ度忍進ミ申候與板口へ之入る事為ニハ度々引取候而彼兵ニ引渡され百余人も逃込進み候ニ付然ニ長岡口ハ為度々切殺され死傷も多ク将又終長岡を取返され残念至極之基場ニ夜を明し居一両日程ニ而一人も不余死傷砲数弾薬も存外積込ミ候而如何相成候哉廿五日夜ハ武具方并吉人等連近来之附相馬并玉一斤拾

石峠

一　岩村田一小隊

隊長肩書之落カ　[illegible]

〇諸川口

薩州	長州	佐土原	長府
御親兵	敦家	御家	高田
松本一小隊	新発田	土州	村松

六八　北越出陣金児砲長與宮永（新平）書写　戊辰八月十三四日

秋冷之節と相成雨天猶別而不順病人も多く相出申候即死手負も追々多困居候乍併諸藩ニ引比候ては弥外出し全武靖神君八幡太神之御守護ニ而候与弥之人数者一歩も引不申候ニ付尾高之評いつも同様今度越前も格別之精兵を出し候得とも長岡之評判者宿陣之札見候而も一番精選組二番之手之様ニ而世間ニ対し恥ケ敷次第ニ候右精選さへ残兵ハ如何哉先般之対陣之数十日之内昼夜中之不案内之地ニも不見仕候を専ら出居三四ヶ度程迄も与板口辺へ入込候然其度引揚候得共後兵ニ引留らぬ而已ニ遁込進み度ニ候へ共然ル長岡口ハ去月廿切救され死傷も多数又候長岡を取返され残念ニ候板之墓場ニ夜を明し居候一両日程といふ儀も不分死傷砲数弾薬も夥敷積込之長与何相成候哉去廿五日夜ハ武具方荘吉人足ニ速迄来ニ付相当〆水玉一万拾

荷汁川ニ入リテ蔵王ニ至ル余ハ宮本等ト共ニ[illegible]ニ宿スルモ何事ナクシテ稜[illegible]ニ申サレ

此辺文意不分明ナリ

多[illegible]彼迄[illegible]夜ニ入リ[illegible]辺ヲ焼[illegible]トモ蔵王ハヤケ不申トテ賊ノ白キ玉[illegible]用ヰ

此ノ敵念却テ焼[illegible]ヲ存ジテモ恩ヲ報ズ[illegible]既ニ五日暁ヨリ進撃セラル兵隊

多ク揮込テ[illegible]ニ彼ノ先ヘ立テ夜中ヨリ[illegible]通行セラレ[illegible]上ル与板ニ参ル進

撃致ス森山村死与板口[illegible]ニテ四五人[illegible]追返シ賊兵ニ死傷ヲ却ル[illegible]ク

又六九日長岡ニ至ル撃忽ニ数[illegible]焼出シ諸口一度ニ攻撃諸ニ放火七八ヶ所砲撃

頻ニ[illegible]ヤラルル事[illegible]賊逃ルニ[illegible]一日ニ七八里モ退キ頻リニ

迄与板ヲ追行ク先鋒御家也文ヲ見テ山ノ子原村[illegible]ニ進ニ寄ル進ム是迄

ニ至リ[illegible]見[illegible]不[illegible]又[illegible]燕村ヘ押出シ新加茂ニモ

従ニ加茂ヘ出テ[illegible]御家之十ボレ[illegible]一[illegible]追討諸隊

村松ナド辺ニ出シ[illegible]砲隊[illegible]又今[illegible]会津領ノ界

島下リ村迄罷越此十一日彼之屋[illegible]賊引テ石間[illegible]又同ノ川東三在村山ヲ

[illegible]山ニモ砲銃ヲ以同所今日モ打合ニ[illegible]賊ニ逃ル[illegible]

[illegible]刻[illegible]逃[illegible]名人也津川[illegible]建置大砲ホ二十五門備[illegible]

会[illegible]高人[illegible]定ルスハ皆[illegible]此口[illegible]会識

ニ近クノ故屋[illegible]戦争甚[illegible]一[illegible]彼モ必死[illegible]

[illegible]村松君ハ米沢[illegible]幼君[illegible]百人程[illegible]降参城焼城下[illegible]

賊火ヲ放[illegible]軍ヲ迎[illegible]城ヲ[illegible]賊[illegible]入焼[illegible]

軍[illegible]故[illegible]村上モ官軍ニ属[illegible]出羽[illegible]

会[illegible]三ツ[illegible]致[illegible]長御家一小

隊[illegible]兵今十二日[illegible]此方川北是迄見[illegible]長岡[illegible]下[illegible]

且與板辺賊ニ打[illegible]押込レ金銭衣服刀剣モ取ラレ[illegible]人家流失モ有之作

ガラス使用

免れハ出来る事て上ニ焼失且ニ千有余日ニ戦争之ニ遣られ或ハ怪我死傷する者て

家を焼かれ置下宿し寺毀衣類を奪取られ日々出夜々ニ篝火ニ守柵いたし

入用ハ多分之事も相増ニ付而ハ此上ハ如何成行ニ哉返り申候実ニ気毒千万

眼も当られぬ次第ニ御座候へ共去るとも思へハ御在所町在之者共も御国恩を何ニ

而も其上ニ居ても下ニ居ても報じる時節なるべき也　偖　御家之御評判ハ何方之宿

村ニ而も宜敷実ニ難有事ニ而共ハ皆よまれ御家中も多く死ニ而ハ却而又御家之御恩ニ

四月下旬人数を出し又軍も強連高山ニ下陣と五十丁程ニ陣替致し　官軍薩

長芸越藩之兵新潟へ進ミ既ニ此川東ニ而ハ薩長御家之砲ニ而越藩

之兵隊而已ニ而此川（阿賀野川之）両岸ニハ小松赤坂ニ笹塚ニ下り村三ケ村白川北之砲ハ越藩之

砲ニ而二門を今十三日ハ高山を攀ニ掛候所　芝田口本街道ハ芝田先鋒ニ而薩

長等進ミ来リ後ゟ廻らる鼓声を気ニ掛候遠近故ニ乗り存騒ハ却而後

を防き留るニ気も付ぬ様進ミ来らん此御返ハいつや此津（アカ）川を被引退ニ而ハ相成ル合

色々候又云ふ今ハ高く候而一歩退ク之道も無之甚難渋也乍然数十ホレシン位

ニ而も有宿ニ御ニ而苗枯運ハ信夫も中ニ容易ニハ雨側ニ而此馬下ス村と予

不此川をも近ニハ里之四百余懸ニ里数遠山路と有之候ニ付ニ殺ニ支板今稽も有

之又賊之出不之又近ニ寄ルト侭ハ芝田之赤坂ニ或ハ会兵之真田或ハ強侭番頭と

申候由一番隊之出先早々虎椿ニ態者ハ故ニ君前中又も又真田が出しと云て其ハ

子引付ハ手て引ハも有之ニ様子怪我死人等も定而も有之ニ付心覚ニ賊ニ表を（評ら）語ト

ルヲ新居城ル噺しを聞キ今日ハ呉ニ而戦争ハ始ル一向ニ承り不申酒

而御之次第もあまり不申し逃口話之少々珍ニ承候中ニも常ニ九ツ時十月

此ニやく天気ともおまへハ降出シ又時ハ雲の降ら故田之何とも形も無難渋

度之有ト此辺ハ津川迄ハライフル進軍出来兼申候而此辺ト堪へ候過ニ而ハ無之候

ガラス使用

中軍ヲ承リ先ツ取リ近馬下ス村ニ陣取候所ヲ此度賊方大敗ハ全ク御軍ニ

而新潟ハ上陸此國勢上陸ニ而近在ヲ焼払候ニ付両国も同様且新発田も官軍ニ帰順ニ而

故南道ニ逼られ北ハ越後口ニ而ハ長岡ヲ進撃致し候ニ付開戦候間賊ハ道ヲ失

ヒ沢田ヲ隔テ長岡ヲ顧ミ候由敗北ノ者モ有之ニ付右ニ而追々賊兵ハ屯集陣

営候処素ヨリ来ル者ハ不絶候所遂ニ其兵ハ新発田ニ処兵ヲ引揚候ハ官軍ヲ相手ニ致候

趣ニ付テ強ニ為兵ヲ引キ一手ヲ下シ南方面ハ賞罰ヲ厳重ニ致シ中ニ其出撃ヲ

一層ニ進撃シ官軍ニ為ニ既ニ敗ヲ取リ新発田ヲ首ニ討取リ候ニ付中敵ニ而進撃候由兵ハ

相ニ成リ候ハ会藩ヲ達シ不得ヲ取候村松入口ニ而小競合有之官軍ノ村松ヲ取

書写不ニ而和兵ハ先ニ荒レ候ニ付即時ニ保塁ニ而守リ候由下る

八月十三日認

㉙丹国富進筆記写家筋

一 此節仁和寺宮様柏崎ニ御陣営ニ御座候 御附添朽木藩 一橋藩 木下藩 秋月藩
松平兵部大丈其外軍曹軍監付候諸役人都合御旗本四百拾六人ニ御座候

一 木下藩士ニ咄ニ 仙臺ハ京都ヨリ御不審ニ付有之候屋敷御取上鍋島ヘ御預ケ入
京ニ止ル者ハ賊徒ニ御座候 奥羽ニテ大名一向在京無之候由ニ御座候

一 戦場討死ハ皆々屍京地ヘ東山ヘ御埋メ被成下碑ヲ被建霊神ニ御祭リ被成下候事ニ御座候（已ニ御主意之由と存）
長州抔ハ其己心日ニハ君公手ゝ焼香始リ御家来迄焼香致シ毎年日ハ〆切ニ相営當日ハ御免
兵町人百姓群集参詣致候由

一 東叡山宮様六月三日会津若松ニ御一宿直様米沢ヘ御移リニ被成由

一 白川口四月廿七日ゟ戦争相始リ同夜白川落城官軍寄手土陸長彦根土州ニ而、
諸藩ハ白川侯ハ迯去伊達郡永井村ト申所ニ此節住居ニ御座候 白川口同廿五日官

軍大勝利若松家老小横山稲渕二人討死敗走致シ若殿若松ヨリ五里福良ト申所ヘ
御保出相成又々御代トアル所近二里ニ御控ヘ相成ト申

一　歩兵鋒ゟ乱妨ノ者共沢山ニテ赤将装束ニ付皆赤装束ニ御座候何故トイフニハ
赤キ日之乱妨余程治ク相成ト説ニ御座候

一　降テ白川口戦争有之六月十八日棚倉落城棚倉ニ賊軍ニ与シ官軍ニテ攻落申候

一　長岡ハ越後侯ニテ数余程着ニテ與板ニ四十人組六小隊着戎装ニスツホ
外ニ装束着長岡様ニ御座候

一　奥州白川口ニ余程進撃ニ相成若松城迄十里ホト勢至堂ト申所迄進撃ニ相成当
八月中迄ニハ是非若松落城為致候勢ニ御座候

一　尾州人ニ噺ニ尾州ニテハ江戸御城桑名之城ニ預ケ有之桑名ハ海上七里ニテ一
月交代等ト申ス相替リ桑名若殿御家中ハ皆寺院ニ恭順謹慎致居候

一　ヒトシク尾州公当殿　此節御在京ニ御座候由ニ当正月三日四日京地戦争之節二條
御城大手御城ヲ受取ニ参リ候由ニ御座候

一　紀州侯ハ五十五万石差上御詫申上御歎願之有之候得共御差許ニ相成候由尾張藩之説

一　四月洪水ニテ尾州領二十万石程出水荒地ニ相成候と噺り申候

一　賊兵共人寺社與板ニ降参ニ出願致之世話致シ居候奴之噺ニ古郷ハ江州彦根
在之百姓ニテ羽州天童ヘ参リ仕官致シ天童侯ハ勤王ニ御座候へ共賊国近キ故
庄内ニ攻落サレ余儀無降参仕有之右與板ニ降参ニ罷出候奴モ庄内隊長中村七
郎右衛門組下ニテ越後筋ヘ出居候処彦根侯モ官軍ニ相成候モ官軍ニ御座候
右故何分鉄砲向ケ不致手ニテ降参ニ罷出候ト申者之噺ニ賊共井伊侯抔ハ実ニ
徳川家之恩澤ヲ蒙リ今官軍ニ属シ甚タ不届至極抔ト罵リ申候由
賊ハ水戸脱藩モ出居リ右又彼ハ勤　王誰ハ佐幕抔ト申テ降参人噺リ申候

側ニ尾州人多勢有之リ甚ダシ迷惑心ニ存セシヨシ申居ト此節ハ讒ニ尾州ノ三家ニ権
威等モ振ヘバ三家ニ家臣陪臣ヲ挑ミ杯トナルベキ此節ハ先年ノ様柄ニ替ル迄
アヤマリ居ト原村ニ尾州一同騒動ト節抄者共方ハ一向不揖無候ト知尾張方ニ今
坂鍋沢山兵十トシ其後又ヒ酒ヲ計シイラ立候大十兵トヤトレ衆秘せ於ナシ酒肴
差出シトモ尾張隊長井ノ口久之丞十分ニ隊下皆士分ニ申置ト見兄皆ニ横威
等一向無之居隊長始メ気ノ毒ナリ何分初陣ニテ不案内故宜敷頼存と申之条
ニ無之称ナリト

一 米沢当春 朝廷ニ拝領ノ大隊旗見所持致シ押立罷在申ト見ヘ申居ト云民
ノ説ニ米沢ノ奴原ニ乃テ相ニ米沢共ヲ等ニ官軍薩長抔代抔仮賊ナリト
申或ハ官賊

一 嘆方ヘ進撃致ス賊台場方ヘ度々知ル賊営ヨリ会津ヘノ演説書ニ官軍
ノ強キハ薩長抔代ヲ是迄ノ人ハ皆〻ニ入テ来リ有ヘ真田ヘ又拾万
石モ世ニ出ル也張ト申合ス強兵ノ薩長ハ何備ヲ以共真田ニ威勢甚ダ敷
申居ト名ヲ会津米沢西之ヘノ演説申居候方

一 会津ハ越後国ヲ押領シ米沢ハ信州ヲ領セントノ由郷民ノ噂ニ申居ト

一 米沢多分甲冑ノ者ニ申居ト仙台ニモ之テ陣羽織等着候様抔ハ美麗ニ申居ル由

一 古屋佐久左衛門事郡中郷ニ出ル大君相成ト云古屋作左衛門ト唱ヘ申由

一 奥州鎮撫使九条殿ハ人質同様朝敵ノ不成様ニトテ仙台ニテ諸藩致警衛奉ル
藩ノ州ハ庄内仙台ニテ斬首致シ申由ニ申居ト

一 仙台国境ハ甚ダ厳重ニ其台場築キ罷在由ニテ此形勢ニ根本ハ仙台会津
之両仙台ニ而弱兵ニテ多穂会津ニ与シト云右兵ヲ得タル左様ナルハ気ノ毒ナ事
ノ滅亡ヲ幸ヒ至逆致シ候ト之噂ニ申居ト

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3　ガラス使用

一　三月頃ゟ會津（米澤ノ誤ナラン）ハ朝敵征伐之御旗　朝廷ゟ下リアリト

一　是迄之戦場跡農民ハ耕作作リ取上納不申内御免之様ナリト

一　七月廿三日柏崎ゟ官軍薩長加州其外諸家軍艦六艘ニ而新潟之側松ヶ崎ヘ着ニ相成リ敵後ゟ攻撃ニ而長岡口ゟ進撃出張ヲ諭ニ皆崩レニ成ル与板出雲崎等ハ堅く守テ居候処（地形要害ノ故）弥廿五日暁ゟ進撃ト相構リ味方ハ我一功名ト拳ヲ握リ右山ノ賊方ニ出廿四日之進撃廿八日ヲ何者モ以テ知ル廿五日夜半頃長岡市中放火致シ兒玉家中妻女ヲ諸家兵糧方抔ニ身をやつし下女ニ入込居リ賊ト同腹ニ而合図ニ火を放ちしゆゑ味方甚タ驚キ之無存ト存之合図ニ賊共押来リ得共第二進撃ニ之用意有リ異ナル致直ニ大砲小銃廿六寸砲声影響山谷ニ震動ス官軍ヲ勇猛を振ひ廿五日得其筒傷矢早村ニ薩長等迄押候得共兵甚多見附村杉生村ホハ官軍進撃ニ而印ト成ト道場大ニ手負賊兵之奏之ニ押来リ無據引揚長岡市中ニ而戦争ニ混成賊長岡城ヘ攻込味方又々二十日市十日町迄或ハ小千谷

七月廿日與板原村塁戦

迄引上ケ兵を留メ其節佐川松村西山山本等討死手負有之漸ク上下多分留メ候ト扨又賊兵共相備ヘ之持場與板原村ヘ乱入致シ来リ四五千間程之所ニ而廿八日合戦争相成リ尾州大番組一同勇猛を顕し大砲激戦ト合得共賊引不申候間翌朝四ツ時頃ゟ至リ山ヘ左廿八日ゟ尾州申談し拙者共十手様ニ進撃持戦ニ得テ不ル進ミ尾刀ニ正面ニ相手ト台場ニ而歌杯ニ而廿七日ゟ問敵兵逃ル引退ニ大ニ追討仕候処味方之勝利ニ敵深入不仕台場厳重ニ守リ候所其節森山討死高井負傷計りニ而ハ一兵も無ホ受けず不ト候所賊兵討取六人ニ而足不負手負ハ相知レ不申ト

一　柏崎出帆ニ相成ト味方新潟辺松ヶ崎ヘ着船廿五日直様新発田城ヘ押寄候処賊共長岡進撃ニ付諸勢人数繰出シ候処ハ味方敵後ヘ廻リ候而新発田一戦ニ之及開城降参官軍ニ而実効を抜キ候ト処当表米沢家老抔臣等降参仕候ト

而も稍以録書有之處解 宮宰新発田一同ニ而米澤會津ニ兵糧玉薬運
送道筋ニ而五月廿日ト處を長岡ハ十日頃迄引揚ト諸家廿九日薩長松代
本道ハ長州干城隊四小隊 磐石隊二小隊 御家ニハ吉村隊山手其外間道ハ
諸家進撃長岡口味方先日之敗走を無念無謂ニ徹し奮激戦争致シト故
新発田勢ハ長岡城而追し又ニ進撃十二字迄迄七里程之所迄追討進軍と相成ト
而賊兵長岡城ヲ中其外放火致しける處迄去放火ハ十里程ニ而見へ煙焔火ニ天を焦
し砲声上ハ天ニ九下ハ金輪際迄ニ響キ人有様ニ而同日夕方長岡川東與板川袋
等ハ薩長越前其外諸家川向ヨリ（長呂）村嶋田村ヨリ敵陣之進撃ト相成ト候處
拙者共對ト兵ト與板原村ニ賊兵引退キ不申ト付明ケ朝八月朔日朝飯ニ相寄
ニ外賊兵長岡ハ取返され新潟之下ハ新廻新発田領玉薬運送道不残切られ
ニ而皆時ハ敗走仕ト右前夜ニ拙者共ニ進撃致シ候心得ニ而貰居候ト存ト外夜

討も不致ト間違支度致置候ニ引取り始メ申刻ハ拙者共相寄申ト間後をも不見
皆ニ何国ともなく逃去申ト而其後是迄之賊本営（馬越）間瀬村ハ進軍仕土地之人民ニ
承伺候得ハ申ト處會津水戸脱藩と申ハ廿五日夜（暁ハ）原村ハ敵兵来り節會津勢之人
深手ニ而引急所迄去ト之語り申ト同所光浄寺と申寺ニ水戸徒留隊之奴原討死之
墓印（三本）木建置申ト扨夫ゟ金ヶ崎と申所寺院ニ休息来名領大川津村ニ宿陣
二日未明ニ地蔵堂ニ宿ハ進軍又ハ熊ノ森村迄進軍ト候中軍ゟ指揮ニ付熊ノ森ハ進軍
同所ハ宿陣右次村横田小（池）宮村ハ来名領 右村之前夜迄来名勢宿陣有之處二日未
明ニ三條宿ニ逃去申ト由 三日長州五番大砲渡辺某ゟ一同砲護隊とも燕宿
ハ進軍ニ付ゟ指揮ニ付進軍同所ニ三日四日宿陣罷在ト 四日夜五反田出兵之敵兵
候ゆへ人数ゟ七番散兵ハ応援申来り候處地蔵堂中軍ゟ指揮ニ付右応援ニ而早速以
使番竹内友馬早駕籠ニ而伺申処右援兵不及旨申聞ニ付五日早朝燕宿出立

五百田ハ米仕少孔最早赴キシ間直ニ加茂宿ヘ進軍加茂ニ集ル賊四日夜長州
ニテ加茂山ヨリ打出シ進撃ニテ保内法れ下条村加茂ヘ放火致シ村松ヘ逃去申ト右加
茂ハ京都ニテ加茂ヲ移シ候由八幡山崎三条ホト近ニ御座候ト扨新発田降参御許容
有加茂駅ヘ人数不差出シ置申ト村上ト新発田一同降参ニ而許容ニ相成ト

一 加茂駅加茂大明神ハ大社ニ御座候 七日加茂宿を立村松城下ヘ進軍ト扨
此指揮有村松ヘ米仕氏亦ハ村松在安土村ゟ新道進軍宿陣仕ト扨
村松君公ハ八月二日会津ヘ落去ニ相成申ト申説ハ新潟ヲ廻リテ官軍村松城之
側成ル愛宕山ニ登リテ打出進撃ニ致シ賊兵皆阿弥陀瀬村之方新ヘ逃ニて小西谷
ニ右之方新ヘ甚堪兼候ニ付長岡ト同家牧野隊ニ而夜共節長谷之方新
近進撃賊ヲ伊賀嶋之方新ニ集リ居候ハ寄合山中ニ御座候ト 蛭川隊ハ津川道
赤谷之方ヘ近ハ節進軍致候筈ニ御座候ト

八月三日

一 村松城ハ米沢州新潟廻リニ官軍等押寄愛宕山ゟ打出シ候ト云官軍之勢強く共ニハ
敵ヲ防キ兼ネテ逃去申ト村松勢之内二百人程正義連ト號シ降参ニ罷出ト
会津表ヘ引退候を砲発抗致シ米沢弾薬兵糧皆捨テ逃去申ト 村松城
并市中百余軒皆焼失村松之家老二千石堀衛門二郎佐藤人会津同役ニ
枝深ク会ク君公一同逃去申ト

一 村松領分高ト申スハ三万石ニ而一万七千石貢ニ御座候ヘハ御家中ヘ御扶持ノ被下御禄く甚
少ク甚タ被下扶持ニ而御座候ト ○正米一万七千石ノ事ナルヘシ 然ハ封内狭キニハ非ラス

一 十三日迄安土村ニ宿陣十四日安土村ゟ二里半山中上松川村ヘ新田一小隊
杉代一小隊進軍申候ト扨御指揮有之同所ニ宿陣

一 米沢御家様ハ会津ゟ御加勢ニ而御座候

一 大総督府和寺宮様ハ当時三条ニ而御宿陣ニ御座候ト 四條殿ホ同所ニ御宿陣く

一堀貞次郎殿村松ニ而先達而相拒ミ居候処落城之節ニハ此外貞
次郎殿ハ近藤ニ而候五泉宿ニ於テ新ニ御召ニ而降参之相願ひ候付御許
容ニ相成八月十五日御家老是迄ニ而同家相續議ト相成 仰付候由十六日五
泉宿ニ而從者百五十人程ニ而家老殿ニ相成ト次男實ニ仁道ヲ以同家故村松本
領ヘ相揃ニ仰付ニ而領内市中甚タ悦ヒ万歳を唱ひ居ルト村松ニ居ル同家臣堀氏
ニ而同家ニ而伯父次男ニ而家臣相續父ハ今之無之貞次郎殿ハ官軍ニ
應し勢州桑名侯同様ニ而父ニ敵対致し新別ニ成候ト

右街巷郷民之説ニ而實否ハ未相分不申候得共新潟ヘ申来候ニ付書留
置一見可被成下候 以上

三十 在越相龍寄佐藤小九書　八月廿日付

町医者着ニ而御在府表之動静委曲承知致候処も太平無事ニ而先々安心仕候越後路之天
下来る為之大變万民塗炭之苦ミ誠ニ以目も当られぬ形勢ニ候去月廿四日之變動
却而僥倖忽越路鎮定いたし下民安堵致候奥羽一二之藩未平定ニ不至鎮定近日
相治可申と京師より日誌ニも見候着之各藩ハ大兵来る事故両海陸充満ニ罷在
追々羽州之方ハ進軍候様各藩其餘藩之内ニ而ハ警隊ハ越路要地ニ守衛之為
新手代りる奥羽ハ遠からす軍配之様子ニ見え申候

一米藩ニ而も尽ス事ハ勢変ト変従ニ今日之形勢名家も忽潰滅可致遺憾ニ
至るもの有之哉ニ為ニ世録を失ふ家不少全名義ニ暗き故ニ而唯々闇君ニ在
所ハ是非次第ニ存候且高田ライフル護衛到着越路泰平後之祭ニ而
座候町医等も同様之事也何れにも異事ハ一向無之候今日之形勢泰平之

姿ニ罷成候旨申来ルよし也

八月十八日

三二 又 越後国蒲原郡三条宮陣ゟ発書 （八月十四日）

今日 宮様ニ而出陣ニ付西園寺様ニ而も出張ニ相成近日又々此地ハ引

払ニ相成新発田大守ニ而ハ今八ツ時三条御坊御本営 宮様ハ参

営ニ相成候ニ付本道筋之大会集也謝罪致方ニ相成候と

一 高野広馬ノ総督ニ而出張修理国住之者一万迄相頼候よし 且米沢人数

も追て越後筋へ押込ニ付てハ修理殿より配指揮仕候様と申事ニ付大ニ

驚キ候ニ付早々頼出候ニ付降参ハ銘々致方ニ付候へハ彼人の面目ハ如何之至

君ニハ名目も揮ニ候ハヽ半面と然候得ハ当国人ニ皆殺有或ハ哉ニ付

一 長岡一条（去月廿九日の事）御家ニ而評判よろしく石内ハ七十八日之中島ニ而戦

ハ浦附ハ役所ニ引揚の見込ニ付賊も感心致呉て此三条様ニ而ハ中々よし 如

ニ是ニ而偽と云 御武名も輝ニ付全 君上之御徳と臣下感激涕泣

我存ル次第一寸申述申上候事

八月十四日

三三

牧野駿河守家来

稲垣 平助

右無而順逆を弁致候て合も有之追而実数取調し候上何分ニ申

渡も可有之候得共先当分長岡地民政向御委任と仰渡候間兵後民心

を安堵為致候様 朝廷之徳意を宣布可致事

八月

三三 又 八月十九二十日発書 同廿七日達

津川口と云ハ会津より越後の口極之要地ニ而会津之精兵ト数も相敗しハよし

尤ト節ハ最早越後路ハ氣遣ト無之趣右津川を敗走致し且ハ官軍も余程難
戦ニ及ひ死傷之者有之候得共一昼夜ニて新潟か乃至新發田へ賊軍
一の汲ト三條より新發田へ新潟を回ては十七里不回時ハ十二里也凡五十丁
道故大きく入て弱る申ト新發田大名よい持方ニ而ハ無之新潟ハ十中近
も多し追て六千程ニ近く相成申ト實ニ見え兼候近日一の手戦と存候ニ而
八月十九日立ニ付認

其二

従御監軍御達寫

追々御本營之儀ハ當分此表ニ而御滞留ト申

明廿日朝六ツ時御供揃ニ而新發田表ニ　御進軍被遊候ニ付　御出ト
且又　御供御泊之儀ニ付可被相守候事　八月十九日

廿日　御休　加茂　御泊　新津
廿一日　御休　亀田　御泊　新潟
廿二日　同　木崎　同　新發田

今朝　兵部卿宮様御發軍奉拝候處御先ニ日月之御旗相建並ニ流旗（御旗ハ大キく長く至る赤く御見え候日月ハ金銀ニ而両面へ張込ト相見申候）夫ゟ兵隊前後相固メ
将軍宮様ハ御年齢ハ凡廿ニ三才位ニ御見受申候御肉太く色白く御丈夫ニ
而則御馬上ニ而烏帽子ニ錦之御直垂ハ紅之御錦襴ニ御見事之御装
ハ扨の其外先手供ハ荒井殿ヵ羅紗之御節之飾ハ御強弱三人徒歩ニ而當表
中東山道北陸道之両　御總督府御親兵之御役ハ惣而其外ニ而行粧ニ至て御手軽
之御供廻りニ而敷て見受候處二百人ニ附添ハ少しも無之候　宮様之御事

故其上錦旗ハ奉拝上上下いつれも感激仕候事ニ而日月の御旗抔ハ通俗本の上ニ而見候位の事ニ
正敷奉拝候而ハ誠ニ以至重至恐懼戦慄至極ニ奉存候一日も早く御鎮撫相成錦旗
御皈京奉希候泰平ニ沐浴し万民安堵歎服仕候様ニ祈候事ニ候奥羽も次第ニ御鎮撫相
成候而今ハ四五藩（會仙米庄）の外ハ皆官軍ニ降伏仕候 天朝の御威徳ハ又
格別なるもの二而此度一天之君ニ奉敵候事故忽潰滅可仕候ハヽ是ニも
無之上下衣て 天子御愛憐成下候事故務而有死を奉守候事ニ候形勢
ニ而ハ只々もので今賊之大逆天地不可容之国賊と此を不攘して八洛ニ而
際無之ともなく其比りのせらく事とぞ思ひて

八月廿二日

㉞八月十九日 軍監松平源太郎様より下候 早
賊事矢石之際被創病者之者共其藩々ニ而手府ニ而病院相建手厚之取
扱之儀ニ至り得候 為国家奮戦勇闘候輩所存も深く 御佳慮被為遊
寸刻之苦悩をも不厭ニ為存候得共近頃西洋治療之道相開奇療顕然
病院之法甚整ひ篤和漢之医間世上洋医大ニ相成其外医官被差置
官軍病院根拠を高田表ニ被居出張先ニ分院ニ大患之者ハ根院ニ差送
厚く御世話之所存候 然ニ其間各藩病院義医合一致熟談ニ遂従
切々治療可致旨被 仰出候間各深察之 御叡慮洞徹可致様
可相心得候事

八月

病院頭取赤川玄櫟ニ付 御任命候間諸藩病院より一人究竹崎病
院会議處ニ早々出張諸事同人ニ打合可致事

八月

ガラス使用

朝廷ヘ新政ニ而御参意ニて尽し新政府ヘ申上候也

八月十九日

三五　武報　八月十九日書状　同記二冊（起戊辰六月幾望　至八月十九日）附

秋冷相募候處益々先達而以来御地大分騒擾ニ付而ハ向方共大分侍物相発し

全く蝉森ト申風之手段ト申ものに候且離散之者も多分ニ而就テハ当春ニ仕

小子私ハ一向無之候得共是ハ去る寅年当年中ニ両国ともに献

月ハ居候ものゝ又兄ト供之茅屋ト相居住ニ付十分之湿気を受候ニ付

ニ付当冬中ニ弥更八十里越ニ山谷険阻之其地御座候ニ付出張を被為

ニ而先年秋國ニ一円之手勢ニ而申候者共之様子何之ニ付先達而

彼之方ヘ之儀積ニ相成候由ニ付候ニ付候辺鄙ノ御陣故

ヤ承り候事共之報ニ皆官軍之其余之者共就中御内意織

私之謂候ハ八年官軍之追撃ニ鉄砲ニ而是より仙台上

段高家之内何ハ先達付ス方部合を見候とも候ニ付

諸宗之事候ハ其ものも出兵追々雪天之頃ニ付候一同成や

毎年九月五日明ケ之ハ通路難相成申候且又実ニ無之候

ものも御座候ニ付其他御機嫌何卒奉願候

右之段申上候

八月十九日認

越後蒲原郡蒲谷大小荷餘ニ而
之郷右衛門

右之大略ハものゝ相雑之日記ニ御覧

㊱在越陣　金忠氏宗宮新氏書　八月九日

昨朝第九つ時ゟ長岡見張ニ仕合候処然兵列ニ而呼状且之を遂散いたし西今日津川口山間川ニ係大難所ニ二基砲台有之度説得候ニ而見候ライフル二挺れいたしあるき兵隊之軍ニ而ある猶徳岡村ニ水軍通り説得時ハ押出途中ニ而大関安兵衛伺候申上候ヘ候不能了候何事不日ニ開と存候ニ而候　以上九日

㊲越後國村々触札之写

此度　官軍当国ニ出張向背之賊徒を掃除シ万民の塗炭を救ひ下候として御指むけ相成候の儀ニ有　思ひの外無之諸所出張　官軍中従卒（之輩）小者共不心得之者有之猥ニ民家ニ押入神幣ニ野菜鶏卵を大集取（哉之）由之（義）説有之候押買いたし其聞有之甚以　朝廷之御主意ニ戻り　官軍ニ穢

抑ニ道ニ天ニ従相違令以野行らし強盗の所業ニ至る事ハ民ゟ之を更ニ甚
ニ看ス高ク此レ村々を犯て借金ヲ強ヒ一ヲ取ト為ス一揆ヲ起シ之を速ニ完
実ニ可陪レ一つ事也

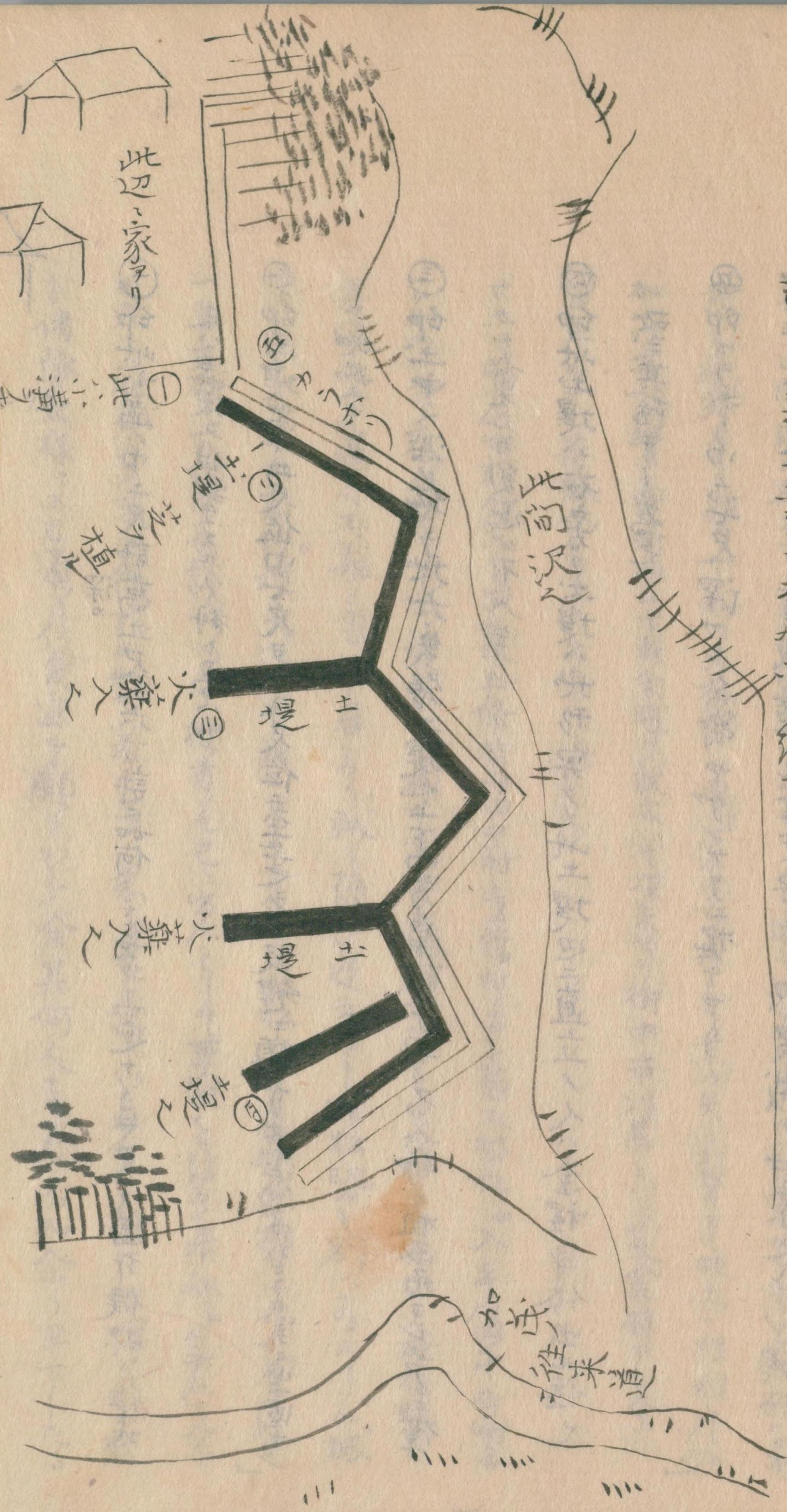
辰 八月十四日　　官軍 会議所

以テ近官軍徒屈の仇ハ獄の穏便ニ迎ヘ為ス民難ヲ受ク今ヤ其暴ニ所業
も未タ若キ変在元々此頃札為村手為ニおそれて陣ニ宜ニ之有

三八 八月廿一日進軍之記　（久保三郎成字子甫著）

八月廿一日晴未刻過三條駅を發し一之木戸田島西大寄東大寄下條を過て酉中刻比加茂駅ニ入ル泊ス　下條村を出る処ニ関門を建有之此ヲ当四月比賊取建て守らし由此関門を過ぎ来り前面ノ山ヲ営て賊砲臺を築き置たり其堅牢ニして且巨大なる事実ニ目ヲ驚かせり其製大略如左雛形也　予同ニテ後来ニ事ハ揣之唯

恐らくハ百ニ一二をも不写ナと哉


此辺ニ家アリ
㊄ 竹ヤらい
㊀ 此ハ小溝ナリ
㊁ 土堤芝ヲ植ル
此間沢也
土堤
㊂ 火薬入レ
土堤
火薬入レ
㊃ 土堤レ
此ゟ東街道

㊀印此小溝ハ巾二尺許高（深カ）二尺五六寸許ニ如何ニモ長ク上迄ホリテアリ蓋斥候杯ノ往来
又ハ潜伏メ狙撃スルノ料ト思ハル

㊁印土堤高サ五尺位巾七尺ヨリ八尺位ニ至ル芝シ三段程ニ植タリ土ハ赤子バミテ実ニ堅固ナ
ル砲塁ナリ

㊂印土中ヘ深ク堀テ地穴ハ矢張土堤之上下四方厚板ニテ土ノ不入様ニ拵ヘ居ヨシ予モ僅
カニ入見シガ奥迄ハ不入キ

㊃印此土堤ハ右旁ノ土堤ハ地形卑クメ此土堤辺ニ直立ノ人ハ余程身体出ル位之
故ニ其防キノ為之

㊄印カラホリ巾六七尺深サモ仝断ヤゲンナリニ堀テアリ

加茂ノ入口矢立といふ所ニ賊番所を建て守りし由衆賊の仕業之といふ

右之通堅固の砲塁にて久住の計を為せしも速に逃去しハ官軍前よりも銃砲を打
発し痕跡多く塁上ニ有り又後北ハ廻りて家の有る辺より下々矢ニ打撃せし故大ニ狼狽せしと「いふ」
加茂町之ハ繁花之所内二十軒余賊の放火にて焼失せり街中市川某といふ大金持アリ今
官軍の大小荷駄となりてあり

廿二日晴辰中刻加茂を出発上条柴内田中村青梅村なとを通て村松には入午飯を寺町なる
る処の一寺ニ休息せり当城ハ焼失して城下市中ニ村松下陣といふ札多く見ゆ又村松勢ハ
肩印ニ白木綿ヘ正義と書ツケ居たり賊ニ随ひ逃去りし村松勢と別つためなりしと「城
下市中もよほど焼失せり当月四日なりしとそ　村松ハ近日本領安堵せし迄大喜之体」
一事可驚一つ咄の奇談あり予彼寺を已ニ出んとして草鞋をはき居たりしに年六十余
の老人萌黄の火事羽織ばかりの物を着して予の前に来り地上に両手を附て叮嚀ニ会釈
し備隊長様ニは御目通り仕度由に願ふといふ余其何人なるを不知余り卑下したる

ガラス使用

取ありし故軽輩と心得ナ抔ハ甚抔ハ何者なるや隊長ニ逢度ハ隊長の家来ならナ入よと
いふ其節牧大夫来合せ先ハ小川様先づもてくといふ彼人固辞して漸様と上り其処ニ脇差を置
て奥之方へ行ニ不審ニ存して不図向を見れハ一人刀を持居る者ありニ則其者ニ於れ
ハ何者そと問其者中ハ何れハ私の旦那ハ当家の家老小川平次左衛門といふ人之と云も
大ニ何ニ取たり其間ニ奥より来りて予ハ立居して不ニ参り地上ヘ手をつきて只今ハ隊
長様とも知らず御無礼の段御意を頂き殊者佐倉ニ於ても御受を申上るとて又向ニ戦士進軍
するにおいて外ニ行列なく相承候門外ニ供も凡三人ニ於ても好ニ一ニ降参して本領安堵
セし迄余り廉恥なるもの中ニて実ニ越後者ハ何つらも骨一本位ハ不足歟と思ハる
此年今賊七八人来り当家の家老堀右衛門三郎（三子石）とや談し家中ニ於勤　王歟
佐倉歟といふ事を吟味して紙一之勤　王家七人を或ハ縛り首を斬り又ハ切腹
申付たり甚しきハ切腹の者之虚実を疑ひ其墓をあばきて験屍せしとそ

此より家中戦栗して佐倉の説と相成し由　村松より下曽根木越なると過て雨中
刻沿五泉に着ス

五泉ハ駿州沼津領ニて一万石余あり陣屋もあり大概ニ繁栄之　当地ニ五泉隊と
いふ農兵あり此ハ此辺の博徒杯の由先達中より賊徒ニて募り求テ一隊となし調練
ヲ致洋銃を発ち是迄　官軍ニ抗し居し由無る処賊退去る時ニ不従行して　官軍
ニ帰向せり今ハ当駅の上下口を守衛面番せり犬骨折て鷹ニ取らるゝとハ此の事之
隊ハ七十人余もありといふ

廿三日四日ハ諸方分配の藩兵陸続として当駅ニ入る尋て赤谷口小松口両道ニ
行進ス　先日之話ニてハ津川ハ已ニ　官軍乗込しと聞ぬれ未ニ左様ニ無く川を隔
て砲戦のみ之と雖之進も諏訪峠に出張嶺上より津川に十五丁も有之といふ賊砲ハ
ボード三斤実九位の由ニて格別届きも不致我ライフルを能津川駅陣屋杯に

好着裝束といふ併し何ヶ欲賊之津川駅を焼払土夫を虜し度とのくの松本
俊太郎より聞当地の人気ハ先中越後よりと思ひる　越後ハ一体北を開き
南を塞き居り故欲実ニ陰気盛んニ陽気不旺の国と依て第一雨天多く又男
子ハ力弱く且気も鈍し婦人ハ力強し気も鋭し荷物を擔ふニも人足ニハ
ニ婦人多く交る横ハ籠を擔ふ女大概えたしそ晴雨とも不論歩行ニも奇怪
の風俗之　人気ハ小千谷長岡辺ハ第一の悪風俗之三條此ニ次り加茂當
駅ホハ左程ニも無之

三　戊申八月廿二日自越後蒲原郡村松陣営寄ニ田磐書状　附日記一冊　（自六月十三日至七月廿七日）

朝夕冷気相募ト　扨子ホ先便申上置候以来一昨日迄吉ヶ平ニ罷在候所村松迄進軍ニ今有之
昨日吉ヶ原を立て鹿峠ハ越ヘ黒水ニ一泊して今日四ツ過村松ニ着いたし候　隊長ハ
本陣を五泉と申所ニ只迄有之　昨日三条を立ニ加茂ニ一泊今日村松ニ福寺ニ宿
ニ五泉ニハ三条向相成ト　扨子ホ下陣々即円寺ニ　将又村松侯ニ世子有り其世子勤　王ニ
而家中も半分程も此地ニ残り有之所半分も君侯ニ従ひ会津ニ逃ら候ト由　世子勤　王
故ハ家を奉つるニハ立ニ成下ト由　當福寺宿寛大ナる由　家中ニ而ハ領内一円大凡九万石ト
扨子ホ只今迄山中ニ有之故多分最早津川新潟皆相ニ而中ト承　當地ニ余り薬り
如何も津川口今ニ戦争有之　一昨日（廿日未之）限死傷ニ津川方軍ニ入り申ニ及候ト只今迄何と
申事ニ戦争有之所聢と不相分ト向地名も不申上ト　新潟口も先達ニ新発田村上国
境ニ戦争有之所新発田不利ニ而一先引揚ト承ル薩長応援して遂ニ取返し申由

ガラス使用

同所ヘ行キ候ヘ共何レモ其口々進軍ノ任ニ候ヘハ先着ニテ罷

八月廿二日　西村甲太郎

平田上　廿三日書状

扨今日夕七ツ過五泉迄進軍之令有之暮六ツ過村松ヲ立テ夜四ツ頃五泉ニ着イタシ候
処新発田ヨリ津川ヘノ街道ノ中赤谷ト申所近軍攻ト相通シ有之明朝出立ニテ、
候処昨夜中ヨリ津川ノ手桑矢澤ヘ近迄火ノ手盛ニ又米澤街道関ト申辺ヘモ
火ノ手盛ニテ村松城下相ノ説ニテハ矢澤迄ハ焼キ会津共申ハ何レモ敵ノ様子ニテ
津川モ頃日ノ入可申カト存候　村上モ当十二日落城ト相聞ヘ候ヘ共越後此方ニテハ先
平定ト存候先ハ右ノミ

八月廿三日於五泉夜四ツ半認　西村甲太郎

㊁　御封上　大参殿　宗城

余後ニ契濶ニ付キ追日秋冷相加候処先以御全家弥御清福遥賀ニ至リ存候
随テ足下文武精励ノ由頃ハ陸奥ニ英才ヲ会シ心腸ヲ尽シ候モ以来追々出兵ノ砌
於諸藩賊徒掃攘戦略抜擢底ヲ奏シ偉功ノ段ニ付テハ　叡感不斜御褒賞抜擢補
補相成　勅感ノ詔モ有之実ニ不堪大慶候此ニ至リ年来ハ御苦労代ノ教
今母貝徹ニテ御重臣共モ　誠忠補翼ノ至リト四方ニ力ヲ尽シ候ニ面目ノ至ト存候
感泣此事ニ候条存分ノ節開給度仍テ此余ハ軽ク進ミ候条恩賜モ以テ表
存シ候乍憚全ク職ノ条御推察下サレ度以上

仲秋旬二　宗城

大参殿　下

二伸時下御自愛専一存候不一　御全家ヘ宜敷　追々奥羽之平定

得勝進襲佐ヨ討ラ之為義挙不日入京賊始伏誅平定ヲ企望ナキト難キ
藩々遠仙堂ハ宗臣米倉ニ役ラ之建乱ト軍ヲ乱敵ノ拾ニ今月ニ至テ不分京
棲何ラ之知レ不尽ニ至切ヲ肖情ヲ病ヲ然ヲニハ先来土天文ル弱キ敵不尽ラセ
不承仕ノ其事ト云不便ナル存ト奉ル挙家忠誠ヲ補弼ヲ為ス大勤労
叡感ニ奉ラ好戦尽ノ為ト英邦衆魁ヲ不尽予ラ成ト天地之肯懐裏ニ存ル欵
此ニ奉ル以之
三伸　以京中事態且又ハ一事無ヲ開度存ト己上

右戦　幕下ニ日本全之文字和島老公ヨリ成展秘中写支全ヨ大ノ永之先君上更
吉之御名經也ヨリ幕下ニ日本之字多人信濃守ト今及ヒテ今度依之議ニ赴投ニテ
年程也大乱ニ及ハカリ也云

四 醜説

八月十五日朝鎌侍大丈出去参政岸太郎吟早追ニテ北越ヘ赴ク明之日ハ府於新
又同しく之行タリ何之事故有りて俄ニ行タルヲ人々の知トモセス怪ミ疑ハ猶之
時役有之事ニ而役スル頃ハ去月廿四日暁石田ノ陣ニ賊ノ夜襲セラ討副将
小田代先逃去テ跡ニ不残敷ノ戦士残率ハ防戦ノ所若卒ニ死傷数人
ニ及ヒ多ク逃失ニも衆ヲ多く其後ニ諸軍ハ多勢ヲ的しニテ追戦スル事ニ至ルヨシ
以後ニ度割腹為ル也ナレハ其後追軍ハ何レ少ナクシテ一ニ云
遣ト云侍郎ノ此役罷帰ノ多ケレ戦士之ヲ取ノ後ホトニ云モ一ノ聖ナリニ帰ト云ニ至ル
リ依之岡部之入梢レトスルニ弥不治罪ヲ以テ免ク而シテ砕ノ梅戦疑無ニテ
人々難苦ヲ不顧然ニテ偶ニ危難ニ遭ハ先逃去ナリ　寺文書状ニ曰夜ニ分ケ一逃回列ト分六栞之ト云
多殺モ有ニナラハ之首ニ取リテ一ノ段ト云ル大ノ事ニテ二ノ句ヲモ与ル又阿除

一説小幡副長ハ（斬殺セシトモ云 又佐々木ニ殺サルトモ云 ト云）長ヲ害セントスル所隊長ハ戦場鉄砲ヲ観ル迄共ニ議論スル

ニ我隊長ハ気ニ取リ又手ヲ鳴ラシテ故ニ議論ヨリシテ隊ヲ分チ何トカ

之ハ此ヲ隊人カ此処ニ告タル所ハ若クハ當ノ時ニ其ノ利ニハ作スヤ内乱アリテ（之ハ小則カ成リ行ク名ニ此行アリシナリシ）

此従セシ所ヲ従スル内之ハ七ツ置ク事ヤ否其事ヤ若実ナラハ隊長ニ近迫シ

ムニ従フ者ヲ當夜高田ニ不在ハ夜義ニ在ハ不顧ハ元ヨリ色ニ酒ヲ

ニ在リテ其近辺亀崎楼ニ館ニ少隊士隊ニ行テ達シテ要ハ防ニ防ギテ

下知モ有リシカ隊已ニ至ハ一ツモノ又ハ之ニテ引揚ラルヘキナク然ニ拾テ之

少左右ニ近ヨハ何故ヤ（隊長ハ大七日夜少左右ニ到ル 亀崎ノ隊ハ大七ヨリ上大谷署之）挟ミ又長岡ヲ再

ニ度潰乱シ近軍ニハ何程大勢ナリトモ隊長モ副長モ能ク大力有リ共二人

ニ付テハ然ニ其内ニ従テ不知ニ唯兵隊アルヨリ近ヨハ何ヤ

畢竟兵制無法本営無物ゆ役隊ヲ在トテ大体トモ云ヘカラス隊戦従ニ死ヲ

スハ年後ヲ之後述ニ逝去ヲ事ヲ全スル上策之（味此夜義ニ依テ二度ノ事之ヲ記 テニテ成記ニ有リ其傍ナキ何ヲ）

一 同志タ隊氏岸ヲ以テ隊長近辺ニ於テ状ノ内ヲ賀茂秋良息朝食ヲ以テ隊長様是

ヲ何ヘク同人ヲ依ニ此陣思ヒ寄ラ穏ニテ此近軍ヲ取リタル故隊ノ兵モ其由

ニハ存在ヲ所ニ隊ニ云フ中ニ此等奉隊ニ像ニ依テ只九ケ所隊ノ者ハ往来ハ

ニ隊ニ在ル唯百ニハ不退其連ナル又ノ説〇一説ニ又隊内ニ勇ヘ隊ア依ルノ（行ハリト云ハ弥ニ数ヲ迷惑）

一 或人云兵物ニ甚信ノ内隊氏 総督ニ七テ何事シナモ有リシヤ立将之一士

ニヒシク云法ラシ云ヲ不知迄タルニテモ士ハ二千余計ヘ小兵ニ人之レト

テ隊モ安シヲ行ラレシ故ニ士分等ノ所者ノ見テ近軍ヲ率ヒ云

若シ義テ近付テ見シヤ斎藤ニ一二隊隊長ニ行シ

一 斎藤ニ近藤ヲ見ルハ軍費金ヲ保ニ得ス一ヶ月三千金ヲ送リタル実之ニ

中前ニ二ヶ月隊ヲシテ送ル一度ハ金子所ヲ借リテ時ヲ凌タルヨリ此ノ迄故

必定窮窮せんより（去年十二月後ヒ不安しトモ云）当座足ル六千両ハ送ラれおもし

一 郡中村々ニ高壱石ニ付二十文ツヽ来巳ノ年ヨリ出銀差徒ル三ヶ月割合ニ而[illegible]年限ハ

一 京阪ニ而金札千万両ニ貸金ヲ仕付ル上京之如ク役紙幣を作リ何ノ新ヲもとし

不足ルモ窮窮ハ貸出シ少ク難儀ハ三万両宛年賦ニ而万両作ラれし大ナル困窮（之トコロ）

一 長三ヶ年金拾五万両利分作ルモノを国難として歳成シハ金ヲ持テ

跡ヲモし之難儀ハ已ニ千万両と作ルとも難儀ハ自然ニ交易潰ル

者ヲ以て出シ為ニ未来ニ於テハ御損ノ人を出之由

右ニ付自然国職ニさせれハ今ハ国中窮急ニ付被免之トモ云

一 成就ハ北陣ニテ国縣ト作ルもゆ得ぬや様々て当時ハ手代寄附一ヶ

又猟師之ト君臣出羽云シれ共国民ニも任しテ我所ニ本道大成氏之一

偏国人言て不納近年共甚し合テ苦ニ以候

一 長州ニ於テ為侯其ノ説論ニ兵を極弱させれハ已ニ数新田続之後六ヶ年ニ一度

或ハ十ヶ年ニ一度而日任ニ兵を観ル而事を停廃して根本を害スルモノをさせ

れハ不本海ルト云ヘリ此説寡ク成テ若ル年月ニ而今ニ至テハ年々ニ数等

も巡し此侯ニ而ハ朝廷ハ善善政を行ハ続トして其ヲ従ヒ者て奉を此ニ

一の生ニ而益あるヘしれト此侯徒し所ニて小学ヲ[illegible]家ニ書判人被斬し之眼

あれハ以民力を害シ又書を省く事をせくして冗官を除きし而給を減ニ

人民を収め衆を合せて耕作を為ハ当然一の生も生[illegible]

令し侍従ルハ之ハ大業成し

一 京所縁[illegible]国力窮急又彼ニ、太公ニハ文近日[illegible]一人を訴ニ

字[illegible]女子[illegible]撃らて一の[illegible]寛之又[illegible]皆[illegible]甚

当惑スル事[illegible]難し[illegible]或ハ敵ラん[illegible]

ガラス使用

めさるゝ事ニ我封国始末無之一所之知行ニて侍臣皆喜ことなる五千石にも
之を他邦織侍儀もし給ハるとも皆喜ことなる五千石ハ旧自事ニして
公也すこしも心ニ叶先祖ハ無之一所ノ例ニ此を一言も言ハ不得ニ（恠之）
近侍五十輩皆紗衣を着たる者を観る人ハ或云大公近江御行ハ数ゝ
有之ト云実ナレハ大て不ハ知ると

武田斐三郎
変ハ合し

一 武中正義学校ヘ至ル時真理玉大田まて打揃て行きて對遊せり三氏本傳ニ
奇人めく對話ハ何彼言ひ得ヘ飲不得實傳痛く見る侍しトつ真氏性
一人ある對供セリ真氏ニ檀様自らの輩ニる處ニハ竹中も眼ニ篤ると
一 此頃甲州ニ往ニ市川浜屋成田氏を信く二泊して帰るヘりしハて信ニ成氏
着達三人（浜屋某ニ三人とるら別ニ）僕二人を召使ふ事一ヶ月ノ費ニ千両なる海七十
両ハ残る事無し何ぞ成替りして物を無て買ヘ遣り知るハ嘆ヘ殊に
三ろれうし

或説ニハ金の價ハ増りて今年の初より頃ハ金ト云事ト云元メ分両也に
もり到藩ノ士卒を以て公縣ニ治しメ侍従月給を公私分ち取り同伍ニして兵
卒ニ在ハ給金無く縣令ニ任ハ月給アリて家禄有るもあり
一 今秋ニ稲未だ熟さぬより高費穀價も一苗（籾）ニ二倍許ニ成りて高直
となり一ヶ年ニ一の耕作ニ一昨年西ニ戦ひ其費ニ数千万金を使ひしに是ニ継（ぎて云）
一 今年ニ数多出来ニ鉄砲破損ニ是ニ数多を損じ至ニ国役ニ無く侍も此頃三の役より
積りハ少積りて凡四万両一ヶ年よりと
一 三條揚ニ皆水不載未年ハ出納多く替く流下分一の運入して積れ三ヶ
千万と云ハ文化以来の金積にて有り故に為替ハ言ふニ新英夫之ト云
一 今年秋ニ数多出来ニ至りて是ハ七万銭の事も何程手傳する事不足ろ
其往ハ未一人凡ニ三千両也ト云

九月八日

一 九月八日[illegible]岸[illegible]出張[illegible]ニ於テ[illegible]何方ヘモ或ハ債

ヲ責ラル、由ヲ聞ク 松柱陣街道[illegible]欲云（近キ日迄ハ行テ面ヲ見シ サレ共サリシノ有之ト云）

一 北越府[illegible]中将亀ハ[illegible]手故不叶ト云タルヲ語ル 疾番ニ相渡シ其ノ外ハ一ノ人賞ハ

時人存命ニ立テ[illegible]還ル[illegible]之ト云 着後鉄砲[illegible]氏ヘ行テ申出ト云

[illegible]右様ニテ大ニ[illegible]杖

[illegible]其月富[illegible]一ノ中ト[illegible]道[illegible]

[illegible]ト云テ[illegible]

[illegible]上ト云テ[illegible]陣中[illegible]二七一ノ[illegible]人[illegible]不

[illegible]且[illegible]一ノ[illegible]

一 [illegible]八日[illegible]四[illegible]

[illegible]

[illegible]別[illegible]

㊸ 雑説

八月廿五日頃恩田（十郎七番隊士）養父病気見舞トシテ帰ル村松ヨリ三里追分ニテ[illegible]ラレタリ

越後前[illegible]ハ十九日三条御出馬ニテ十四日進[illegible]○討取ノ唐[illegible]トシテ三ノ一ノ近

ヲ致後ニ此ヲ鎮撫セシムルコトヲ未決ナリ

一 同月廿六日頃ヨリ度々北陣ヨリ飯山鎧軍出張御用人[illegible]野某ト云先鋒ニ来リタリ ○越前[illegible]寺

ヨリ一万近ク取リタル由 後ヲ河原現分監軍ト為シ[illegible]

後軍ノ測ニシテ度ハ[illegible]後代ヲ[illegible]ナリシタリ

一 同廿九日奇新北陣ヨリ攻入（十七日迄 行先ハ）今夜進軍ヲ始タル由 津川口先鋒ハ敗レ堺ヲ越テ近ク

是ハ会津領[illegible]下村

[illegible]

ル由有之由 ○会津[illegible]寺三ヶ所ヲ焼キ又其ヲ砕キ新シク進軍堅固ノ保岩ヲ築

ヲ守ル之ヲ破リテ進シトスル事ト云 ○八十里越ノ方吉ヶ平共皆堡塁ヲ築キ

賊塁ニ對シ昼夜不断砲撃ス[illegible]吉ヶ平ノ對峯凡七八丁隔テ賊

塁ヲ守テ賊ノ襲（塁敵か）シ騒ハ小丸山ノ下ノ小峯ヨリ宮下氏ノ屋敷ヲ見ル經ハ賊塁見エナリ
ノ村松ハ降伏シテ本領安堵シ先鋒トナリテ前過ヲ償ヒタリ〇北越ニテ本藩ノ働ノ誉
スルコト何故ハ不知トモ凡ソ従ヘメシ長岡夜襲ノ時ヒ諸藩ハ皆敗走セシニ本藩ノミ十人程ノ
モノ踏留リ赤鞍ヲ揚テ防戦シ遂ニ引上ルニ至リテモ許シテ不依ト云 頗ル
宜シク落セリ不審 松代ト云ヒ但松代ハ許シテ私ニ知ラストモ唯十万石ナレハ島與
ト評スルナリ〇長岡ノ為ニ我諸藩ノ者ハ皆隠レテ黒ク戦ノ序ヨリ免レシメタリ
亡兵ニ至リテ皆我士卒ノ愛セラルヽ所以何故カ知ラス

一 長岡降人 殺経ル事ハ降人殊ニ用ラシタリト云 一隊ヲ起シテ一手ニ当ル 六月私
論ヲ以テ許セリ 但用ヒラン 然ラハ根山ノ 柏崎十二万石ヲ以テ 降ラシメテ 其人ヲ一個ト思
フ事ハ未タ定ラス

一 越人官軍ニハ未親ミ薄ク 今様ニハ尚今様根ト云テ居クハ不謂ナリ

一 高広ハ長岡ヲ攻略ニ先ニ保ニ有リ浦郷ニ在テ本営長岡前ニ後藤ノ兵ノ保ニ一ノ人数
引揚ケ来リタリ本道敵兵ニ依テ待従是ヨリ引揚孤ニナリシ故ニ兵隊モ引揚ケ
没リ 此節賊已ニ頗ル追テ続テ不通依テ加州藩ハ千賊ノ在ル村道ヲ打破リテ引ル
而シ松本藩ハ千総道ヲ円ク一ノ引整度好ハ千後ヲ押ヘ敵ヲ支テ一ノ引ト云 加州ハ七
一 後語ヲ松本ハ彼ノ敵ニテ一ハ不破引ト云 彩ル故ニ然一ノ為リシヨシ 人数ハ兄弟分
ニシテ兵力ト云ニ至同所質セリ 西松本ハ皆軍代ニ於テ中澤ニ[illegible]（源氏）善子ヲ好キ
リノ彼ノ松紀ノ人数ヲ引揚ケリ 彼ノ者ノ増メ無キト云

一 其後会藩ハ夢ナリヤ落セテ見ノ保ニ迄テ本引揚ハ何事ニ参謀ヤ長岡ハ云々
ニテ尚偕ナシ一ニテ指揮ニ一ノ在刈谷藩ノ引揚ゲ諸軍ヲ引キ与ヘ引キテ其節如何ニトモ云々（ヨクヘ甚シナリ）

一 長岡再落シ後松尾ハ四属ニ勢（加州 上田 富山 新発 松本）等ヲ追撃セリ 此時ニテ見ヤ是何ノ趣味（[illegible]）
皆追ニ不戦故ニ屡責メシ僅ニ石ノ落去新発シ忽チ又退ク故ニ復何故引ルハ

やと責られ候て强て菟角弁論ハ不致候て權引揚られし居所繋り弱き中にも
此五味隊ハ家弱く何国ゟ参りても此隊長五味織江二千五百石なりし行
軍ニハ必着長裃ニ刀一本ニ立て大平世之行装を不失宅陣幕を打て一日之座掌
設る之君ゟ得たる上殿ゟ召き観学園ゟ数て出張すれとも人通るも不知思ひ居る
付其く候ゟ参ゟ下ニ庭へ呼せし之家之従ゟ候て見られ之学矣使ニ入り之
一 其陣ゟ傍へし候と長岡兵衛ゟ隊長ニや我隊ハ素人ニ使ふるかりにて陣を従へ草鞋を引
ことて来りし之人九千石と備へしとても出め引敵之我目所ゟ従へ行ハ必ス
従僕之例ニ連行てハ草鞋位ゟハ結解すへし陣長ゟ目を視我ハ我五味隊長
と称すと申るへしと又我陣中役人目ゟ多く候ハ諸藩ゟアキレ居りしと
一 会津入役ニ改し諸藩郭ゟ之実役ハ少りてそて越ハ千ゟ越ゟ成るハ皆弱兵を撰
以録さる様君ゟ情實ゟ之兎角故残るニハ未ゟ手ゟ民近く傍ゟる様ゟる諸ゟ事之

「此ハ後尾追付ノ分ニ入ル」
五味隊長ゟる處ニ遣て弱兵ニ候ゟ残へ来りハ徒ニ残念と云て述ゟける處之達而
ゟりニハ平ゟ候共召ぬく勝手ニ引揚る者ゟハ一役し兵糧ニ付其草之多く到来之
此の通り候ゟ云ゟ云ゟ然して其者ゟ落長の代ニ兵隊等之ハ結局ゟ不
相心兎角ゟ候ゟ諸藩ハ数目ゟゟ此ゟ出張ゟゟてハ其藩ゟ數人之脇代ハ尤
之藩ゟ之ゟ我二小隊ゟて残ゟ成るゟ御ゟ見て又我諸隊残りゟ出大ニ諸
語ゟりてゟ候ゟしと云
一 藩長ニも弱兵共ゟ勝る兵も有之又ハ其ゟ藩ゟ隊ぬく新募兵ハ草ゟし
長之者兵隊ハ實ニ精悍ゟ成ゟと云
一 江戸ゟ近ゟ又脱走之者頗る有て徳川使者州入郭ニ従ふ人幾何之外皆晦
ゟ遁ゟ候ゟ両様持ゟゟし仕度ゟ称ゟ之一向ゟ来ゟゟゟ新之来ゟ侍ゟ放人
数千万ゟゟし五家生活ゟ計を失ゟ脱走ニて諸国ゟ行ゟ將ゟ羽ゟ赴ゟ

ガラス使用

又別ニ謀アリテ來ル故未タ其所以ハ詳ナラスト云

一 大久保一翁勝安房守ハ何方ヘカ逃去テ其所在不知駿州ノ加馬ヘ従フ人ハ其ニ在名ニ在カ二人ナリ耳ニ失ル有男並ニ得テ二三人アレトモ其ハ[illegible]ナリ

一 大総督有栖川宮ハ西城ヲ出テ田ノ因州邸ニ移ラレ三條右府東京鎮將ニ任セラレ入城有之タルニ付政柄兵權二途ニ分レハ朝政不帰ノ四契再此ニ可紀欤

一 東京ノ吏ハ高田某ト云者アリ近頃擢用セラレ事ヲ掌リ大ニ威權ヲ用ユ因州ノ下邸ヲ取リテ移リ妾妓三四ヲ畜テ大奢ヲ極メ世人目ヲ峙ツルナリ然ニ此人ハ當国柘原ノ名主ノ子ナリトス

一 備中倉敷縣判縣事 島田泰雄 長田半八郎 此島田ハ太田錦城ノ門人ニテ大ニ有力人ナリトス

一 村上老侯 桐翁 岩村田ニ於テ生害アリシトモ云又云ハ新国ニ由ルトモ云モ亡命候ヘシ

九月三日

㊃紀聞

津川口官軍既界ヲ超テ賊塁一ヲ破リ進テ水ヲ隔テヽ對待スル由諏方峠ヲ越ヘ柳新村ニ至リ阿賀川ヲ隔テ津川陣営ト對陣スルニヤ又ソ津川ヲ奪ヘ天馬陣ト對スルヤ

一 白川口ハ會津ヲ距ルコト七里ノ地ヘ迫ルハ實説也ト云然ハ若松五堂ゟ御代嶋ヘ迫ルナルヘシ

一 三春ヨリ進ム一軍ハ先ツ福島ヲ攻落テ後ニ本松ヲ一ノ段ヲ由ル未福嶋不落ト云

一 庄内之戦ヒ官軍常ニ利ナカリシカ肥前ノ海軍ニ勢加リテ後官軍頻ニ勝利ト云

一 江戸彰義隊残黨二千人程脱走致候ニ付ヲ趣ニ聞者モ行ニ各藩ヘ以テ通達ト

一 居所藩ヘハ逆者ヲ因藩ニ早追ヲ以テ告来ルヨリ當公ヘ入ヤ三ニ出発ヲ至ルヤ未詳候く探索手上ル所ハ如此由（告来ル九月二日發事三日未牟二三日前ニ人ヲ遣テ探索ニ出タリ）

一 德川侯ハ去月十二日発途ニテ駿府入ニ其ニ付テ何故カ発途又容テ今来ル由 ナシ

一 会津ノ若キ兵士ハ（今）甚タ頑ニ多死シテ寡勢之趣、後ニハ紅隊白隊ノ二隊共ニ
之由ニ而一隊ヲ三日以来ハ新兵ニテ不練ニ至ル之由ニ云口江[illegible]士ヲ従ヘ接戦ナルニハ三
人ハ不知二人ノ敵ヲ不殺モノハ無キ覚悟ニ無シ、然ルニ新砲ニ我耳ヲ立テ[illegible]
ヲ用ユル事ハ遠慮之ト口今ハ江戸ニ而或人云今兵力ヲ用ルハ矢弾以テ為ス事ハ無之ト云フ由
一 八重戦ハ可為道之ト為ニ帳三四両アリテ若手路ト云是唐ノ長ニ京勝利ト
の深キ所欲会津ハ国望固ニ城不望固故勝負ヲ国界ニテ決スト謀ラレ
ト云ヘリ今彼ニ在シメハ何如ナラン 当年兵ハ京田山戦ハ能兵ヲ利或
ハ全ク失ニ砲銃ニ十力ヲ減シ所長白色兵ニ在ト知ラハ彼ニ必ス
我国有ニ刀槍ヲ此山谷間ニ振テ勝負ヲ一決スル之謀ラルナルヘシ
一 米沢ハ越後四領ニ他ヲ取借ント云説ニ付テ今日ハ越ノ模様ニ由テ会兵多利之義
一 北征ニ就テ日々面倒ニ付テ来ル由日記二冊ニ一ノ綴ヲナシ 人ニハ此為ニ其保ヲ遺スト思フ

九月四日

此條除之

九月十三日 北陣急報ヲ送ス去ル七日津川之賊営ヲ攻メ其由ヲ告来ル由 薩長兵攻戦
実力ヲ賊陣敗色ヲ見セ潰散スル所去ル（蛤川）野沢迄追撃賊兵敗散其所ニ（討取）（諸隊）群ヲ為ス由
其外降参之者多キ事ヲ視テ賊未タ尽キタルニ非ス二千余ノ兵ヲ別ニ専ラ進ムル事也ト云フ[illegible]詳ナラス
ハ復タ交信ヲ待テ詳ナラン 官軍未タ雲川ヲ過ラス口会兵ニテライフル功ヲ奏シ之由
一 長州人ヨリ探索ニ会津城下ニハ罷リ兵モ戦ニ不係芝居相撲等到者花ヲ極メ如新保
ヲ新保ニ破レ官軍ニ必ス迫ラル之新ハ報セラルヽ頃ニ而来リテ停ム城下寂寞トシ更ニ沈之ト云
㊺ 北越去ル五日在陣之御民部家来[illegible] 八月廿八日発 九月廿四日着
朝夕冷気相募候処益御安康之御儀ト奉存候[illegible]認ル日記相添三條
在陣之内近形ニ而[illegible]御座候哉且日光之方認ル日記是ハ[illegible]
ニ而包ミ[illegible]何ニ[illegible]寂寞ニ[illegible]山谷中之風
ヲ求メ[illegible]送リ候ヘ賊ハ此陣所今四五余ニ而在之ト通ス

一 [illegible]彼敵ハ従来[illegible]ヘ[illegible]ノ兵
[illegible]ト

一 米沢ハ降伏ニ而会津ヘ先鋒[illegible]由 御[illegible]米沢後押薩長ニ而[illegible]
[illegible]ト 此[illegible]米沢四小隊[illegible]高田組何れの[illegible]や近辺
[illegible]三日在陣ニ而中軍ヘ行[illegible]察
し故彼是議論[illegible]此ハ[illegible]ト 河鯉[illegible]
懐[illegible]ト

一 村上ハ去七月中[illegible]此[illegible]ハ岩船[illegible]右ハ[illegible]
押[illegible]是ハ村上降人 御[illegible]人[illegible]此人
小宮山[illegible]人[illegible]直[illegible]ト

一 [illegible]通り[illegible]道[illegible]大[illegible]

九月八日

一 仙台[illegible]降[illegible]ニ遣[illegible] [illegible]
[illegible] [illegible]成敏

一 [illegible]書[illegible]
[illegible]
[illegible]去[illegible]兵糧[illegible]高田[illegible]関川[illegible]
近日[illegible]此[illegible]何故[illegible]

（四六）
一 近日越後[illegible]水戸兵隊通行[illegible]川[illegible]（八月六日）
上ニ[illegible]通らん[illegible]
兵隊ハ[illegible]長ハ[illegible]従来[illegible]
[illegible]と云日水戸兵ハ八月[illegible]先鋒高田後陣（関川ニ在）

一 其中[illegible]上州[illegible]道ハ[illegible]塞[illegible]

ゟ出ズ行ハ一ノ道ヨリ其ノ苦文ニ至リ道案内ニ行ケレハ亡道ヲ由リ會津へ敗走道

を指ニハ不宜也

一 江戸軍艦脱走之榎本和泉率ひ去ル八月より徳川家不首尾之右船ニ所為ニ出運寄ル去月廿四日江戸ゟ箱館ニ至リ近日箕穀ヲ追テ居ルとも大ニ強ク奮諸口箕又軍中ニ於て建白とし一体徳川家復帰ノ儀ニ等ヲ待テ出運ヲ絶ツヲを謀ルとえ折之トモ不遠又大事ニ至ルの説

一 津川口会津ゟ距五里ニや通りえ說ナリ兎角野尻東松山邊迄攻入タル之右殺ハ不分や
又已ニ会津落城之風説アリ米沢口ゟ攻入ハ或ハ然ラン歟

此傳訛傳

一 九月六日北陸ゟ報ㇾ日去月廿六日会津城諸口ヨリ攻入林火焼橋等を打込攻戦官中江戸脱走兵ホ官軍ニ内應し三ノ丸ニ火を放ち焼立小田ニ而軍兵七日攻軍三ノ丸ニ押入トモ田二ヶ所軍兵ニ而落ル由云

此後ニ如キハ相就兼然ル会津近辺三里之畑ハ未会城ニ入リ於籠将軍仙台領服数ヶ所先日ヨリ但会津城下町家軍屋悉焼失トモ大会ゟ攻火の畑見く見欲又津川ヨリ砲ヘ大ニ
と云ハ既後日の会津ハ攻城ニハ及ハさりし由ニ候

一 前将軍慶喜 京師へ参内安堵京ニ来ル 東京臨幸之供奉ニ而 御先ヨリ官位等ハ御復ニ相成や否子細東京ニ鎮座且脱走之兵ハ出運之嫌も絶申へし

一 脱走ノ乱逃散ノ者ハ批之脱走軍艦を一ツ取候由 旧幕府交加し

一 八月廿八日ニ宮様善光寺ゟ御立ニ而越後ニ到来ニ而会津出下田奥羽越ニ此ハ十月ニ
越後府凱旋ニ而ふ一の大ふ宮ニ而 此ハ下云ふ

一 高田米ゟ寺院ニ而者ヲ得数十日無事ニ高田通行ニ而見聞ニ而途中老人とえ又ハ出始を擡

重陽

と説く見或軍車子を三四艘程打て崎より方錦を争ひ[illegible]何もなく一艘に乗る丸

乃て其乃手の難なりしとなる（仙朝酒）何にて人（如か）大人行きまく云一万千両より在中（伝来より有る人へ記とこ云）

一 近藤兵隊をも乃日に四ツ程乃[illegible]にて[illegible]ぬ、千両乃付る事

一 重陽々椿峯村之夫卒某会津城下三里乃家に陣取て泊まりある所にて五ツ時也

八月廿八日より九月廿日と会津城之下を焼焼徳ケを全くた[illegible]焼中人ちらや一向に激しの

様子なきにいかにの次や大しまいに向くそして落たるよりなり（九月十日）

一 大垣早追にて行会津落城て手にまし思ひ口今便詳慎ニテ乃起望を待つ事家なる敷

確之迄る殺を見らえ[illegible]行たりと云路殺し有と云又[illegible]已に[illegible]殺之とこ云

[illegible]通らしりとて云又[illegible]剣を[illegible]賊ら[illegible]去しありとて云[illegible]行伝記

[illegible]ふる確報なきハ何故しや

一 東京 行幸 御出輦九月廿日と云

帝右圖後日得見

四七 武蔵越後蒲原郡葎谷陣営八月廿四日之所発書 九月十一日達

秋冷日々に相募候処云々御地今以盛んなる事にや当方ハ鹿[illegible]流行ニ而大分

病者も出来、[illegible]且吉々平分先山峯保西[illegible]出張之有様に寒サを引込ミ故風邪

ありさるもの無之[illegible]候[illegible]而[illegible]御座候（御見捨ニ此程チヨツキ書ニテ送ル）

ツト[illegible]先達而一小隊に[illegible]枚も[illegible]右なるハ当方追々[illegible]

中[illegible]五番殺士ハ去廿一日村松より移陣仕ト村上も城内初中[illegible]一同焼

掃退去仕ト津川[illegible]方軍[illegible]ニ[illegible]込[illegible]同所ハ[illegible]山[illegible]北月[illegible]

川を[illegible]海辺へ[illegible]手勢ハ地形も何[illegible]ト[illegible]先達（十九日記）日記[illegible]

上下[illegible]大[illegible]御上[illegible]中[illegible]何に

[illegible]御領分[illegible]大井村[illegible]

国[illegible]以て視[illegible]ハ今領[illegible]迄之者に[illegible]も[illegible]何[illegible]

ニ入ト眠リ居ル所ニ右ッヽ鉄砲打込ミ候テ隊長ニ当リ即死致シ候ト嬉〆其ノ
手ヲ通リ申ト故ニ隊ニテ多ク討テ之ヲ取ル根府川ニ執筆ハ勝負ハ得タ物見ニ直
ニ負ヲ感心仕ト

子 八十里越山路之図
（益帝右写所図）

十 仝上図

一 越後ニテハ賊ヲ追掛ケ候処会津ハ弱キ故何レヤ申ス中ニテ散兵ヲ致シヤ至
兵ヲ取リ居ル処ニ弥仙台ニ討ツル所ヲ多ク成ルニ付テ吉ク見テ帯陣八十里ト申
ト申ス雪ニ節モ同ク追ヒ返シヤ其ニ何ヲ思ヘ候モ参ル処ト 九月廿日ニモ多
ク降リ雪ノ中ヲ持ツテ此吉々平ハ積雪一丈ヨリ一丈二三尺位ニ至リ居ル処ト賊ハ
吉ク平ヲ先ツ守リニシテ来ル筈ニテハ塁ヲ築キ防禦致シ居ト此方ニテモ
支ヘ兼ネテ被取ニ候テ其塁ヲ傷ケ築キ付候ニ付今日ヨリ張陣居ル此
所ハ敵方ヨリ直径二十五丁程ニ向ヒ居ル処ト右賊塁討破リテ其ノ中ハ取替ヘ
居ル処ヲ討テ其上ニテ銃声ヲ弾丸雨ノ如ク逼返シ兵ヲ引ク故候ヘテ又吉ク
平ヘ引揚ケ候ニ付手成ニテ在リ 夫ヨリ是ハ人数ヲ待テ又痛メ多クノ手成ヲ鑑ミ
付先進軍ハ論ヲ不待ト八十里ニ通ル所ハ悪シキ宜敷大砲等モ随テ押行ク事
ク得ス道一筋ニテ居ルニ付テ候所ニ居ルト奇ニ渋山ヲ四ツシ賊塁ニ従テ出ル宗道
抔所ニテ有之候子役ノ者大ニ高ハ七千尺ノ鎮山金銀銅鉛場所ニ之有リ候ニ付
シ済兵ト故ニ何レモ其辺ニ兵ヲ維持シテ居ル者ニテ其ハ寸暇ナク下ニ往
ハ丁未四日認　　越ノ萍谷小吾秋方ニテ　高野出ハ之出テ

四八

右ノ吐口ヲ宗家氏ニ当テ新氏方ニ人ト共ニ来候ニ於テ説話ス

大門倹作（十九才）
田澤三郎（二十三才）

一 彰義隊菱田孝助今度隊長下曽根甲斐吉国寄手儀護国寺ニ於テ整

列ニ州路中越後ニ脱走セント来リシ者兼テ同盟ノ者ハ右氏寺ニ籠リ一隊部伍不律具至

三百人程ヲ迂シ脱走ノ寄意頗貫ル者ハ上総加納山ノ田村彦十郎隊長トシテ十人計引

率シ右ヤト寄越ト称ヲ以奉ヲ勤ントス（合）飯路途中ニテ[illegible]召捕ト合右八月廿四日ニ召捕

同廿六日[illegible]尾ヘ申来

九月朔日来

尾州少将（家中）内

丹羽勘三郎

ラ 會津領略圖（奈良中村市右衛門所作）

ム 仝上小圖（津川及八十里越進路）

ノ 津川口進路圖（武敏於津川所寫）

リ 會津略圖（自津川若松本道間道 村里川水山澤大畧）

ト 若松城下全圖

右九幅武敏凱旋後所示

ウ 蒲原郡市内八木橋圖（武敏所寫）

井 越後森町ヨリ會津入叶津村近傍絵圖（八十里越道）

オ 津川口進路圖（九月朔日着 武敏於津川所写）

ヤ 若松城下圖

四九 中野中ノ條両陣屋支配地始末

戊辰八月九日計ニ事ヲ了シヤ尾之藩丹羽龍三郎来リ例の草問ニ一游一偈名右写

セシ意趣ハ去ル三日ニハ真忠大衛両大丈人ヘ面會シテ古留ヲ乞ヒ出テ旅亭（杉屋）ニ宴

市氏ホヲ招待ヲ頼テ去リタリ未タ草氏ニ白絹縮二匹ヲ贈リ（又ノ）其家ト馬ヲ贈リ[illegible]

容易ニ女妓ヲ出シ近頃ニ無キ所ニ依ルマテ世日（年）ヲ経テ鎮テ穏ニ済候テ哉

云尾州家臣ニ両陣屋附十二万石ヲ[illegible]七万石ヲ添テ我ニ[illegible]

周旋丹羽ノ力ニ由ル故郷[illegible]柳状一條ニ記リシ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ガラス使用

如キモ周旋ノ後ニ之ヲ行ヒ此度ハ論判ニモ及フトノ事ナリ中々行カタ
候テ論判ハ出来不申段ニテ所々通路ニテ錦之内談ニハ本ノ上ニ田村
ニ候ヘハ是所ニ承候ハ此ノ者叙説之事ヲ失ハ自然ト我々ノ得ハ又理ナリ
其ノ事ヲ庶人モ察シ轉ヲ借ニ辞ニテ我々ノ疑トスル所ヲ我ニ謀ル人
有候処也ヌル所欲得ナレトモ庶人ニ再言ハ不食虚恩ハ不罪トノ事ニテ
候草苫浪花ニ行テ皆々ル数有候処ニテ元ヲ殿処ニ任セ其村田春北越
五人数ヲ出シ是又北伐シテ早ク後ハ直ニ上京モ致サレハ不来候事御方
之所存ニ非スト存候一條ハ最早田ニモ不及ト存候後ニ於述ラルヘシ
年経丹羽又事ヲ云有候庭陪 築藩実ニ他ヲ非ヌ先ツ藩ノ疑中ヲ定メラルヘシ
其故ハ今ニ以往西藩無之周力一致ト不申並藩ニ有事ニハ必御方築藩モ
一ノ様築藩存申時ハ所ヲ存候ニ申気取ル他ノ論ヲ不交持候テ他ニ持不候

旅館乃製藩ノ家之（然則学者之所有則偽製藩之有也）トノ説ニ則無益之論ヲ説クヲ待ヘタリ此人尾三位
中将之侍講ニテ周旋方ヲ為シ居ル人ニテ学術世情ニ通シ才子ナリトソ
右返翰トシテ書ヲ又浪花ヘ行キ無益ノ論ハ依シ致スニ周旋ヲ以テ為地引
実ニ于東ノ旅ヨリ黄請ヲ依シテ取色ス　日我ハ京地ノ周旋ヲ未タ候ハ京地ニ越
ル様ヲ探リテ来リ説ク旅子ハ後ニ察セラレシ

一 京地ノ形之一説ヲ聞右ハ長瀬谷守和泉侯ハ極密ニ承ル彼侯ノ胸中ヲ知ル
如キモ周旋スレト我々ニ取リ見ニ無益我々ノ謀ニ彼侯モ召ニ会ヒ
ラレ其ノ極秘密ニ知ル人ハ多ク無之ニ之

一 然ニ又一ツ怪ム事有之在京東方御右筆　一己ノ了簡ニヤ如何ナル意
ヲ以テカ正親町三條殿ヘ右一條ヲ頼ミ及ヒ其実ヲ建議ニ及フ子細ヲ述
ヒ来トノ事故直ニ下知ヲ以テ伊丹氏ニ当惑ニテ其ニ付御内ヘノ字

ガラス使用

寧シ一向前ニ歎願ハ相叶ヘシ殿ノ御意故ニ如何請出シテ被出シ候ハ直
ナク思ク一己ノ分ニ近キ殿ト窃ニ悦テタルナルヘシ然ニ右ノ羽柴ヲ附
然ノ処ニ絶テ成ケルヘキトテ四季ノ手法ノ故ハ其事共ニ自分ノ羽柴ヲモ
何程出セヤハ此ノ信長ノ寵ノ手方第一長深キ恩愛ノ後ハ手対シテ信長ノ
手故当事ニ際トテモ不得已ヲ遂ニ従卿ニ出テ手続ヲ乞ヒテ信長殿
然ニ運モ強ク知宰相殿ニ申シ出ケル表裁聞ナラントテ何ト久右衛門ヘ歳
月ヲ過ハ不為今更知ル其事ハ何如丹羽殿ニ存念ニ及ヘシ[illegible]
ハアリトモ所見文御手書並ニ追従（作リ小山張弟出之事アリト云）
送リ来リシトソ四所見又羊問大坂表店ノ院ハ必ス無用ノ旨ノ返答ヲ云
信長ノ周旋ヌ利ニ由ハ全ク丹羽長シ始マル所故ヲ遂ニ羽柴ニ行テ
其跡第一ヲ不為今更ニ信シテ之所為ト云ハ是ニ従テシタリケル然シテ
唐人ハ其周旋ハ万モニ有ルト云ハルヘシヤ

一 今度丹羽長秀カ文ルハ太一候右ノ所為ニ羽柴モ此カ手ヲ下シタルト成ル殿
御領所ニテ請所在候ニモ候ハ其領知事ノ事ハ此ノ殿トノ事ナル此上ノ
周旋ノ道ヲ得ト然ル処ニ当家ノ領知事ハ前ノ所為何申市蔵ト云者ニ合トナリ
他家人ハ様々来近ク寄ト別ニ其ノ所ノミ多ク合セシ所ハ如何知リテ其ノ所為ヲ謝恩
許ト旅ト中ニ領合ニ合テ候ハ是非シ上ハ其母子近侍ハ全ク其ノ建議ニ起
リタリナル由ナルニ羽柴ニ拝トナルハ元来不為ニ関スル事ハ今ノ此事ハ又何ニ分リテ
論モ無ル事ナレトモ此一条ニ付丹羽ハ出度ク事ハ草間ハ三ヶ所ノ尾ニ行
往復ニ要事ニ何ニ効モ無リシト云
将尾ハ入テ来テ其陣営ヲ作リ後急ニ対馬守在城ニ其住宅ヲ戸広メ
大旦ニ至ルトナシ云 此度丹羽ニ不合意ニテ京ニ在ル世ノ請スルニ依テ尾ニテ三歎侍ニ
ハ不知ハ某氏ニ言ハレテ近々周旋ニテ交接往テ江郷ノ為重招ノ契約ニ

ガラス使用

義勇之上ケ金ハ京師祇園様并ニ貴人ニ而百万金ニ成るよし

一 一説ニハ南部屋ニ而四郎兵衛と申者京師ニ而百両出し候よし不相知と云

一 其後右国之話ニ八月中旬生駒辺ニ居候所之頭集り元松平四郎ノ五万八千石（ニ五万石と云ハ成就く）会津郡如郡筆ニ引渡し不申成ニ付而も又外ハ不申分也但し今年ニ者作ハ吟味致し上ニ一万石程相まとり立之不申分りるよしと云

一 今年戦争之院府其外ニ万石も有之ニ付一ノ家ニ戦之役人二千人計七役之村ニ其費も又苦ニ成よし

一 松平領分ハ今ニ而移封之節不止之事ニ付 駿州沼津田中木四ヶ所替ニ依之移替有之所ハ必定ト云新保ニ候之

一 中ノ条ハ今度人四人ニ而仕付ノ河野ホ二人存候よし

一 京師官説ニ而奥羽征伐之事ニ付而蝦夷地ニ征伐致ス事或云蝦夷地ハ却而有之候よしと云

〇七九〇 二ノイ一

836
209
3

ガラス使用

帝國圖書館藏

ガラス使用